週刊 YEAR BOOK

1951
昭和26年

日録20世紀

11|11
平成9年11月11日発行
(毎週1回発行)第1巻第36号
¥560
講談社

日本、「独立」回復!

「真昼の暗黒」八海事件、でっちあげの恐怖
初のファッションショー、モデルが誕生
「原子力スパイ」ローゼンバーグ夫妻に死刑!

冷戦激化の中でサンフランシスコ講和条約

日本、「独立」を回復！

昭和二六年九月八日、占領終結、日本の独立回復のための講和条約が調印された。朝鮮半島が戦火に包まれる冷戦の激化の中で、東側諸国、インド、ユーゴなどを欠いた「単独講和」であり、しかも、日米安保条約とセットの「西側入り」を代償とした「独立」であった。

「日の丸」だけ欠けたオペラハウスの会議場

金色の壁、巨大なシャンデリアで照らされた、サンフランシスコのオペラハウスの正面壇上に、日本の首席全権の吉田茂首相（七二）が上がったのは、昭和二六年九月七日午後八時一七分のことであった。会場には、全世界から五二ヵ国の全権団が顔をそろえていた。アメリカのアチソン国務長官、イギリスのモリソン外相、ソ連のグロムイコ外務次官らである。正面壇上には、参加各国の国旗もずらりと並べられていた。しかしその数は

▲オペラハウスの舞台下にしつらえられたテーブルで講和条約に署名する吉田茂と、見守る日本の全権団。 毎日新聞社

祝講和成立

▲サンフランシスコ講和条約調印の翌日の東京・銀座。祝賀ムードの街角で「平和の花」が道行く人々に配られた。

表紙　この年、「ライフ」誌9月10日号の表紙を飾った吉田茂。「東洋のチャーチル」と紹介された。

冷戦激化の中でサンフランシスコ講和条約

日本、「独立」を回復!

▲昭和27年5月3日、講和条約発効(4月28日)を祝って、天皇臨席のもとに開かれた記念式典。2日前の5月1日、同じ場所で「メーデー事件」が発生、二人の死者が出た。 毎日新聞社

五一本。日本の国旗だけが欠けていた。九月四日から八日まで開かれた対日講和会議は、旧連合国が招請され、講和条約締結、つまり戦争状態の終結と日本の独立、占領終了を決める国際会議だった。

長さ三〇㍍の巻紙の原稿を手にした吉田は、「この平和条約は復讐の条約ではなく、『和解と信頼』の文書であります。日本全権はこの公正寛大な条約を欣然受諾いたします」と切り出した。吉田は交渉を前に満を持し、それまで片時も離さなかった葉巻や洋酒を、一ヵ月半もの間断っての登壇であった。

吉田は、感激を見せるでもなく、淡々と約二〇分にわたり演説した。場内には、各国語の同時通訳が行われたが、時折、会場から二、三人の拍手が起きるものの、盛り上がりに欠けるものだった。現地紙は「平板な調子で、巨大なトイレットペーパー状のものを読み上げた」と書き、吉田自身も後に、「恰も聾者相手に饒舌を弄している如く感じ出して、誠に張り合いがない。(略)結局最後まで嫌々我慢しながら読みつづけた」(吉田茂『回想十年』)と書いている。

この会議には「二つの中国」(北京、台湾)は招請されず、また、インド、ビルマ(現・ミャンマー)、ユーゴ(現在はスロベニア、クロアチアなどに分裂)の三ヵ国は不参加、さらに、出席はしたものの、ソ連(現・ロシア)、ポーランド、チェコスロバキア(現在はチェコとスロバキアに分離)は条約に調印しなかった。要するに「全面講和」ではなく、「片面(単独)講和」という結果を招いたのである。こうした背景には、中国大陸に毛沢東率いる共産党政権が樹立され、また朝鮮戦争の続行中という東西冷戦の激化があった。講和条約調印の直後には、日米安全保障条約(昭和三五年改定の新安保に対して旧安保)の調印も行われた。

これに対しソ連首席全権のグロムイコは「この条約は平和のための条約ではなく、極東に新たな戦争を準備するためのものである」と最大限の非難をあびせ、条約の調印を拒否したのである。

「全面」か「単独」かで二分された国内世論

講和会議に先立ち、講和と日米安保の両条約に対する国内世論は、大きく二分された。学者・文化人を中心に、ソ連、中国など東側を含めた「全面講和」を主張する声も根強いものがあった。社会党は、「講和、安保とも反対」の左派と、「講和のみ賛成」の右派に分裂した。

「全面講和論」の論拠は、激化する冷戦の中で、一方の側との「単独講和」では、「戦争に巻きこまれかねない」というものだった。「全面講和を求める学者文化人の声明」には、後に最高裁長官となる田中耕太郎ら保守派文化人も加わっていた。その中心であった南原繁東大総長に対し、吉田が「曲学阿世の徒」と罵ったのもこの時のこと。「単独講和」論者は、理想論の「全面講和」論では、いつまでたっても講和ははたせない、と応酬した。

だが、反対運動それ自体は、社会党の分裂、共産党の非合法化にともなう幹部の地下潜行などの影響で、さほどの盛り上がりが見られなかった。

国内では、辻々に「祝 講和成立」という看板とともに、日の丸が掲げられ、調印二日後の九月一〇日には、歌舞伎座で幕間に中村吉右衛門が音頭をとり、巨大な日の丸を背に、観客とともに万歳を三唱した。また、旗問屋には、全国から六万枚の日の丸の注文が殺到したという。輸出品の包装紙に印刷されていた「メイド・イン・オキュパイド・ジャパン(占領下の日本製)」という文字の削除作業に忙しい人々の写真も新聞紙面を飾った。

しかし一方では、どこか冷めた雰囲気も漂っていた。一般国民の間では「めでたくもあり、めでたくもなし」という屈折した受けとめ方も多かった。たとえば、「単独講和」に批判的だった評論家の大宅壮一は「婚礼した後、亭主の悪いことが段々わかって来るのじゃないかね、今さらどうにもならんよ」と言い、また作家の室生犀星は「ふだんと同じ気持ちであって何の影響も自分にはない。併し外国人に対する不安な憂慮が取り除けられるのが、何よりも明るい気持ちであろう」と九月一〇日の日記に記した。

こうして講和条約の調印により、足かけ七年にわたる占領は終結し、翌二七年四月、日本は独立を取り戻す。だがそれは、沖縄、小笠原が復帰しないだけでなく、米軍基地への協力のための各種の責任を負わされたうえでの独立だった。

講和をめぐる吉田外交について、東京経済大学の竹前栄治教授はこう総括する。

「吉田の『単独講和、軽軍備』の路線は、戦後日本の経済大国化への布石となった、というのが定説ですが、最近では、吉田が外交手腕を十分に発揮しえなかった、という説もある。あの国際情勢のもとで、沖縄をはじめ、軍事基地をもっと縮小させる余地があったはずだ、という仮説です。今後さらに研究されるべき課題ですね」

サンフランシスコ講和会議に関する各国全権のひとこと

講和条約に対する各国の見解は、まさに東西冷戦の厳しさをそのまま映し出す鏡であった。それらのさわりをピックアップすると……。

ダレス(アメリカ国務長官特別顧問)

対日講和条約は「戦争―勝利―平和―戦争」という悪循環を打破する第一歩だ。小笠原、琉球の「凍結主権」は日本にある。防衛力を持たない日本の安全は、集団で保障する。

ヤンガー(イギリス国務相)

この条約に象徴されるような好ましい対日関係を結べることを歓迎する。インドが不参加だったのは残念だ。もうひとつの出席しなかった国、中国は、長期間日本の侵略を受け、参加を主張する十分な権利があるが、現状ではやむをえない。

シューマン(フランス外相)

国連憲章の精神に基づき外交機関を通じこの重要な条約が作られたことは、近代史上初めてのことである。敗戦強国の非武装を条約によって規定するよりも、平和と再建のため自由諸国と協力させることが最も効果的だ。

ロムロ(フィリピン外相)

本条約に調印はするが、追加賠償を交渉する権利を留保する。フィリピンは日本が再び世界の脅威とならないこと、公正な賠償をすみやかに支払うことを求める。

グロムイコ(ソ連外務次官)

米英草案はカイロ宣言、ヤルタ協定、ポツダム宣言のいずれにも違反し、極東委員会の諸決定を無視しているほか、日本に海空軍基地を設けて日本の主権を侵害し、日本国内の各種資源を軍需動員しようとしている。

朝日新聞社

▲講和会議場となったオペラハウス。4階は一般傍聴席になっており、435枚の入場券が発行された。

▲昭和27年4月29日、東京・淑徳学園の生徒は講和発効を祝い、「平和」の人文字を描いた。 毎日新聞社

被告への拷問と証人への偽証工作
でっちあげで奪われた一八年の歳月！
「真昼の暗黒」八海事件の恐怖

単独犯か複数犯かをめぐって判決が二転三転し、一八年の後、被告が〝絞首台からの生還〟をとげた八海事件。昭和二〇年代なかばから三〇年代に頻発した冤罪の〝氷山の一角〟だったこの事件は、国家権力の残忍性をまざまざと見せつけ、全国から注目を集めた。

単独犯か、複数犯かで〝エレベーター裁判〟に

昭和二六年一月二四日夜――山口県熊毛郡麻郷村字八海（現・田布施町）で、瓦製造業を営む早川惣兵衛（六四）とヒサ（六四）の夫婦が惨殺され、現金約一万六〇〇〇円を奪われる事件が起きた。翌二五日の朝九時頃、家の中をのぞいた隣人が、鴨居に紐をかけたヒサの首吊り死体を発見。一見すると夫婦喧嘩のすえに妻が夫を斧で殺し、自分も自殺をとげたかのような現場だったが、すぐに偽装工作だとわかり犯人さがしが始まった。

この俗に言う「八海事件」で容疑者として二六日に逮捕されたのは事件直後、遊廓に入りびたっていた吉岡晃（二二）。彼自身も「自分の単独犯行」と自白し、現場で発見された吉岡の指紋つきサイダー瓶などの物証から、事件は単純な強盗殺人事件として処理されるはずだった。

ところが、ハナから〝複数犯人説〟を信じて疑わなかった捜査当局は、共犯者の名前を無理やり追及し、吉岡に五名（阿藤周平＝二四、稲田実＝二一、松崎孝義＝二〇、久永隆一＝二二、ほか一名はすぐに釈放）の知人の名前をあげさせた。現場で事件と彼らとを結びつける物証はなかったが、当局側は、拷問で自白に追いこみ二月一九日に起訴。二七年六月二日の第一審の山口地裁判決では、犯行の主犯格に仕立てあげられた阿藤が死刑に、ほか四名に無期懲役が言い渡された。

こうして、山口地裁の有罪判決以降、有罪→破棄差し戻し→無罪→破棄差し戻し→有罪→無罪と、昭和四三年一〇月二五日に最高裁が無罪を言い渡すまで、一七年九ヵ月にわたって無罪と有罪の判決を行き来する、前代未聞の〝エレベーター裁判〟が行われることとなったのだ。

▲昭和34年3月23日、差し戻し審の広島高裁の最終弁論で、証拠物件の包丁をかざして熱弁をふるう正木ひろし弁護士。 共同通信社

〝前近代的〟な取り調べ冤罪事件は増加の一途

「『首吊り自殺に見せかけるような偽装工作は複数犯』という思いこみ、異常な取り調べ、アリバイのでっちあげと、事件にかかわった警察や検察、裁判官はあまりにひどかった」と、第三次上告審にたずさわった熊野勝之弁護士は振り返る。

取り調べの過酷さで言えば、首筋を線香であぶったり、軍靴を改造したスリッパで殴るのは日常茶飯事。そのひどさを阿藤は、自著の『地獄の図―八海事件に見る』で「近間刑事は『ばあさんが吊してあったロープだ。お前もこれで吊ってやろうか』と言いながら、上半身の自由を失っていた私の首に巻き付けて、首吊りの真似をした」と記した。

陰湿な取り調べは証人にも行われ、事件当夜、母親や内妻・木下ムツ子と家にいた阿藤のアリバイをつぶすため、「阿藤とムツ子は一月二四日から知人宅にいた」という筋書きを作り、別の男性と再婚していた彼女に一週間以上におよぶ取り調べを行って偽証容疑で逮捕。二三年一二月に〝新証言〟をさせ、結局、夫から離縁されるまでに追いこんでいる。

「四〇年の第二次差し戻し審の際、単独犯行が可能かを調べるため、弁護士が死体と同じ重さの砂袋を天井に吊るす検証を行ったんです。この時の河相格治判事は弁護士に『君が吊るせなかったら阿藤は有罪だ』と脅し文句まで吐きました。法廷証言を軽視して、検事調書を鵜呑み

◀昭和34年9月23日、差し戻し審の広島高裁で無罪判決後の記者会見。中央が阿藤被告。

▼山口県熊毛郡麻郷村字八海の殺害された早川惣兵衛の屋敷全景。昭和30年1月撮影。 朝川広尾

▲第3次上告審判決公判が昭和43年10月25日、最高裁で開かれ、4被告の無罪が確定した。裁判7回、17年9ヵ月ぶりの終結だった。 朝日新聞社

にし『これを読めば有罪だとわかる』と言って有罪判決を下した下飯坂潤夫のような判事もいましたね」（熊野弁護士）

さらに、良心の呵責に耐えきれなくなった吉岡が広島刑務所から最高裁に出した「私の単独犯行です」という上申書も刑務所が握りつぶす始末。昭和二四年施行の新刑事訴訟法で改正されたはずの、法廷での口頭審理、自白や伝聞証拠の禁止といった原則が生かされていない実状が、混迷する裁判の根底にあった。

こうした中で、問題点を全国に知らしめたのは、正木ひろし弁護士とその著書『裁判官』だろう。四人の無罪を確信した正木は弁護団に加わり、昭和三〇年三月に判決の不当性を訴える同書を刊行。「裁判官はこんなに愚かな誤りを犯すのか」という〝告発〟は大反響を巻き起こし、「真昼の暗黒」（今井正監督）という題名で映画化され（三一年三月封切）、裁判に対する疑念をさらけ出した。

さらに、裁判官を退職して弁護側にまわった青木英五郎も、「法意識が裁判官に定着しているとは言えない。むしろ、人権尊重の意識の欠如は『一〇人の無実の者を罰しても、一人の犯人を逃してはならない』という恐るべき倒錯の意識につながっている」と批判、こうした弁護側の動きに、第一審の裁判長・藤崎晙判事が応戦するなど、異例の裁判論争が火を噴くことになる。

戦後、死刑判決の後に無罪になったものには、福島県で東北本線が脱線転覆、機関士ら三名が死亡した松川事件（昭和二四年）や静岡県で一家四人が強盗犯に殺された二俣事件（昭和二五年）など、現行の刑事訴訟法が施行されてまもない時期に多発した。それゆえに〝冤罪は刑事訴訟法の切り換え期に起こった現象〟という指摘もされた。しかし、現実には、見こみ捜査に別件逮捕、自白の獲得、起訴という冤罪のパターンは繰り返され、検察庁の資料によると、二四年から三〇年にかけて起訴後に真犯人が現れた事件は四六件にものぼった。さらに言えば、「冤罪事件は今もふえ続けている」というショッキングな指摘もある。

「検察官や裁判官のメンツ意識が生む官僚的裁判は一層ひどくなっています。良心的な裁判官の左遷、弁護士の待遇悪化、〝最初に判決ありき〟の裁判を推進する可能性もある民事訴訟法の改正――こうした動向を見ていると、権力側は過去の冤罪事件の経験をたくみに活用している気すらします。それだけに、私たちが八海事件の教訓を生かしきれていないことが残念ですね」（熊野弁護士）

▶八海事件を描いた、現代ぷろの昭和三一年作品、「真昼の暗黒」（今井正監督）ラストシーン。

女たちの肖像

「アナタハンの女王」比嘉和子を呪縛した〝悪魔の島〟の愛憎劇

稲葉真弓

敗戦後六年を経たこの年の七月、南洋の島に取り残されていた二〇人の残存部隊の男たちが救出され故国の土を踏んだが、その一ヵ月後の八月、一人の女性が米軍機で生まれ故郷の沖縄に送還された。彼女こそ、前年の昭和二五年、マリアナ諸島のひとつアナタハン島でアメリカ軍に投降し、残存部隊救出のきっかけを作った比嘉和子（二七）だった。戦時中、大陸であるいは南洋の島々で戦火におびえながら〝非日常〟を生きた人々は多いが、比嘉和子も戦争に翻弄された一人だった。

彼女は救出された時、「捕虜になってもよいから悪魔の島から脱出したかった」と語ったが、孤島の極限状態の中で繰り広げられた複雑な性関係や愛憎劇が明らかになるにつれ、このニュースは衝撃をもって世界中に報道された。

大正一三年、沖縄に生まれた彼女は、父母が幼い頃に他界したため、一四歳で大阪の紡績工場の女工になり、昭和一三年、サイパンに出稼ぎに行った兄をたよって渡航、ここで同県人の比嘉正一と知り合い一五年結婚した。まもなく夫とともにアナタハン島に渡ったが、太平洋戦争が勃発、サイパン島に妹を迎えに行った夫と生き別れになってしまった。彼女はやはり島に残っていた同県人の比嘉菊一郎と夫婦同然に暮らし始めるが、難破した輸送船から三一人の男たちが上陸したことから〝悲劇的な肉欲〟の日々が始まる。

自分だけは生き抜こうとする男たちの間で、島でたった一人の女性をめぐる喧嘩や殺人事件が起こり、加えて事故や食中毒などで、足かけ七年の間に一二人の男が命を落としたのである。

彼女がマスコミのかっこうの話題になったのは言うまでもない。「アナタハンの女王」「女王蜂」と書きたてられ、巷では男女の愛欲模様を描いた映画、芝居などアナタハン・ブームが起こるほど。彼女自身も帰国後沖縄で「アナタハン」という料理屋を開いたが、特異な体験を売りものにしようとするストリップ劇場や旅まわりの一座の誘いに乗り、みずから半裸姿で舞台に出たりもした。

彼女が「アナタハン」の呪縛から解き放たれたのは、〝転落の女王〟と呼ばれつつ京阪神を放浪した後、昭和三二年沖縄に帰ってからである。再婚した夫の連れ子二人を可愛がり、主婦として平穏に暮らしていたが、四九年三月病没した。

読売新聞社

▶昭和二七年一一月、レビュー出演のため、「千歳丸」で沖縄から横浜へ。

勝者・敗者

意地と執念ががっぷり四つ！東富士対吉葉山、勝負預かり

阿部珠樹

この年九月、大阪で行われた大相撲秋場所は、連日熱戦が繰り広げられたが、中でも一二日目、結び前の一番はすさまじい戦いだった。

かたや横綱東富士（二九）、かたや大関吉葉山（三一）。当時の観戦記風に戦いを再現してみよう。

立ち合い、吉葉突進すると、東、体を開いて右から出し投げ。吉葉こらえたところを、東、体を寄せて一気に前に出る。東、巨腹を利して一気に寄り倒さんとするも、吉葉よくしのぎ、左にうっちゃり。行司軍配、東に上がるも、物言いつき、取り直し。

取り直しの一番、今度は吉葉が先手を取る。得意の左差しから寄り立てるが、東、右上手を引いて必死の防戦。勝負は膠着、両者土俵中央で組み合ったまま動かない。ついに水入り。

水入り後、吉葉、勝負どころと見て自慢の腕力にものをいわせ向正面に寄り立てるも、東こらえ、うっちゃる。今度は軍配、吉葉に上がるも、再び物言いつく。満場の観客、勝負の行方を固唾を呑んで見守る中、検査役は、東病気のため再度の取り直しは無理と見て、引き分けを宣告。ここに珍しい勝負預かりの一番となった。

東富士は前日から体調を崩し、四〇度の発熱を押しての土俵だった。それを考えれば、適切な裁きと言える。横綱の意地を見せた一番だったが、対する吉葉山の健闘も、東富士に劣るものではなかった。

吉葉山は幕下の時、中国戦線に出征、左股に貫通銃創を負い、体重も一〇〇キロ台から六〇キロ台まで落ちて復員してきた。それを、「胃袋」とあだ名されたみごとな食べっぷりと猛稽古で克服し、この年には大関にまでのしあがってきていた。年齢はすでに三〇歳を超えていたが、東富士との一番でも見せたように、執念の男だったのだ。吉葉山は、さらに精進を重ね、三年後の昭和二九年の初場所後、ついに横綱に昇進した。この引き分けは、後の横綱昇進の大きな飛躍台になったと言えるだろう。

朝日新聞社

▲東富士と熱戦を演じた吉葉山。3年後、初めての優勝を全勝で飾り横綱となるが、それ以後優勝はなかった。

ニュース・ファイル 1951

フォト＋日録で再現する365日

朝鮮で激戦が続く中、マッカーサー元帥がトルーマン大統領によって突然解任された。そして講和・日米安保両条約の締結。日本は"冷戦"渦まく国際社会へ一歩を踏み出す。国内でもパスポートの自主発行、民間航空の再開と、独立国としての形を整え始めた。

◀マッカーサー解任（4月11日）朝鮮戦争で中国の爆撃を呼びかけるなど、トルーマン大統領に公然と反逆、連合国司令官を解任された。写真は16日、離日するマ元帥。羽田は別れをおしむ日本人でいっぱいだった。

毎日新聞社

1月

共同通信社

◀名物「水上ホテル」倒壊（1月22日）横浜市の大岡川に浮かび、労働者の宿舎になっていた船が横転し岸壁に激突、死者7人、重軽傷者33人を出した。極寒でふだんの倍の宿泊があったため。

▼ダレス対日講和特使が来日（1月25日）前年6月の吉田首相との会談後に朝鮮戦争が勃発したため、18日間におよぶ2度目の会談では早期講和による日本の独立と反共基地化を急ぐことが話し合われた。写真は31日。左がダレス。

朝日新聞社

▲売りに出る金鵄勲章（1月）天皇への忠誠をたたえた名誉の勲章が、東京・世田谷の古道具店の店先に登場。功1級は1万2000円、功2級は8000円と高価だったが、功7級では200円。

毎日新聞社

▼休日はストリップ（1月）「内外タイムス」がジプシー・ローズを1位とする人気投票を発表するなど、この年、ストリップが大流行。写真は東京の浅草六区で看板に見入る休日の少年労働者。

共同通信社

◀造船特需（1月）中国が朝鮮戦争に参入したため、前年末、外航船の緊急増強対策が決定、造船所は年間建造能力ぎりぎりの40万総トンの工事量を受注するまでになった。写真は横浜の東日本重工業。

共同通信社

▶照国、2連覇（1月28日）1月場所千秋楽で東富士を破り全勝優勝。昭和17年、当時の最年少記録、23歳6ヵ月で横綱に昇進したが、長く優勝できなかった。雪国育ちの白い肌と童顔で人気があった。

昭和26年1月

1（月）●北朝鮮・中国軍が反撃、三八度線を超える。
2（火）●鶴ケ岡八幡宮と成田山で戦後最高の初詣で客。
3（水）●NHK、第一回紅白歌合戦を放送。
4（木）●国連軍、ソウルを撤退。
5（金）●元日以来の暴風雪で釧路沖を漂流していた輸送船「鉄山丸」の乗員四二人を米船が救出。
6（土）●東京中郵扱いの年賀状が前年の四倍と新聞に。
7（日）●熱海市の公金持ち逃げ信組職員、東京で逮捕。
8（月）●前首相で国民民主党最高委員の芦田均、自衛の軍備は違憲ではないと講演。
9（火）●東北大、現職教員の三年編入を認め要領発表。
10（水）●東京のラジオ日本・朝日放送・読売放送・東京放送の四社が合併し、ラジオ東京を設立。
11（木）●中学校以上の随意科目に柔道を復活と決定。
12（金）●東京都、区画整理を理由に、焼失した池袋西口マーケットの跡地から業者を閉め出す。
13（土）●京マチ子主演「偽れる盛装」封切。
14（日）●郵政省、人員・経費削減のため、主要二二〇局で日曜配達を試験的に一時停止。
15（月）●民営米屋への消費者登録開始。
16（火）●日本婦人有権者同盟、議員同士の恋で評判の松谷天光光と園田直に辞職勧告書を送る。
17（水）●朝鮮戦争勃発以来中断の韓国への電信再開。
18（木）●警察予備隊長官、軽機関銃を装備すると言明。
19（金）●昭和二五年の合成繊維生産高が、前年の一〇倍以上に増加したことが判明。
20（土）●吉田首相、再軍備は国民の自由と表明。
21（日）●国鉄紀勢線の新宮駅が全焼。
22（月）●横浜市の大岡川で自由労働者用の通称「水上ホテル」が横転。七人死亡、三三人重軽傷。
23（火）●法務府、「アカハタ」の後継誌「平和のこえ」を無期限発行停止処分。
24（水）●山口県麻郷村で老夫婦殺害（八海事件）。
25（木）●米講和特使ダレス、来日（〜2月11日）。
26（金）●協和醱酵、米メルク社とストレプトマイシンの製造技術援助契約を締結。
27（土）●日本相撲協会、横綱の決定権を協会に移すことなどで吉田司家と合意、と発表。
28（日）●警視庁、石油切符の偽造団四〇人を検挙。
29（月）●鳴門市で解体中の魚雷や爆弾に引火爆発。船舶三隻沈没、八一人負傷、三千余戸に被害。
30（火）●セリーグの西日本パイレーツ、リーグ脱退表明（パの西鉄が吸収）。
31（水）●東証、講和期待で過熱、平日の三倍の出来高。

共同通信社

▲「宿命のライバル」対決（2月20日）名人位挑戦権をかけて大山康晴九段（左）と升田幸三八段が対局、升田が勝った。升田は翌々年、「不敗の木村」から名人位を奪取する。

毎日新聞社

▲▼八宝亭事件（2月22日）東京・築地の中華料理店（上）で一家4人がなたで惨殺された。警察は同店のコックを逮捕したが、留置場で服毒自殺。彼はそ知らぬ顔で、モンタージュ写真作りにも協力していた（写真下中央）。

毎日新聞社

◀古新聞とリンゴを交換（2月）紙不足が深刻化、古新聞・古雑誌と同じ重さのリンゴを渡す光景も見られた。この年9月、新聞用紙1連450円がさらに1800円に跳ね上がった。

共同通信社

◀パ選抜、ハワイ遠征へ（2月11日）毎日の別当薫、東急の大下弘らが4月7日まで現地チーム相手に転戦。このためパリーグはスター選手抜きでの開幕となった。

共同通信社

▼地滑りで家屋32戸消失（2月16日）早朝、佐賀県西松浦郡にある人形石山の中腹が地鳴りとともに毎分2メートルほどの速さで地滑り。死者3人を出す惨事となった。

朝日新聞社

昭和26年2月

1（木）●日本輸出銀行（現・日本輸出入銀行）業務開始。

2（金）●東宝、三〇万円の経費がなく、「また逢う日まで」のカンヌ映画祭出品の辞退を申し出。

3（土）●韓国国会、対日協力者数千人の公職追放解除。

4（日）●最高検、発行禁止の共産党機関紙「平和のこえ」販売網を捜索、四三五人検挙。

5（月）●福井県沖で浮遊機雷爆発、漁船八隻が大破。

6（火）●帝劇ミュージカルの第一回公演「モルガンお雪」開演。ヒロインに越路吹雪を起用。

7（水）●三井・北炭など四労組が無期限ストに突入。

8（木）●国会で議事録音にテープレコーダーを初試用。

9（金）●「カム・カム・エブリボディ」で知られるNHK「英語会話」の平川唯一、契約もめ降板。

●日本青年会議所、設立。会頭・黒川光朝。

10（土）●宇野千代、女性作家として戦後初の渡欧。

11（日）●国鉄・湘南電車の運行速度が夏から向上、時速八五㌔から一〇〇㌔になる、と新聞に。

12（月）●本州・九州に電力消費制限実施。電熱器禁止。

13（火）●地方公務員法施行。政治・争議行為を禁止。

14（水）●中野区で電熱器でのおむつ乾燥を発見された警官の妻が子ども二人とピストルで心中未遂。

●名瀬市で「奄美大島日本復帰協議会」結成。

15（木）●東京に一五年ぶりの大雪、積雪三四㌢を記録。

16（金）●警察予備隊、元軍人三〇〇人の幹部採用決定。

17（土）●二五年鉱工業生産は前年比二四㌫増と通産省。

18（日）●京都府網野町で漂着機雷爆発。三〇戸に損害。

19（月）●全国自治体警察連合会と全国自治体公安委員会連合会、警察法改正案反対を声明。

●リッジウェイ米第八軍司令官、国連軍は朝鮮中部戦線で主導権を奪回したと発表。

20（火）●切手・貨幣図案のGHQ事前承認制を廃止。

21（水）●世界平和評議会第一回総会、米ソ英仏中に平和協定締結を要求（ベルリン・アピール）。

22（木）●東京・築地の中華料理店で一家四人が惨殺（八宝亭事件。3月11日、犯人が青酸カリ自殺）。

23（金）●日本共産党、四全協で武装闘争方針を提起。

24（土）●GHQのマーカット少将、プロ野球内紛に対しコミッショナーの設置と連盟設立を勧告。

25（日）●中・高卒の都内就職は上京組が倍増と新聞に。

26（月）●日本初の血液銀行、日本ブラッド・バンク（後のミドリ十字）が大阪で開業。

●朝鮮帰還米兵二人、熱海の旅館で拳銃乱射。

27（火）●フィリピン、日本人捕虜一三人を送還と発表。

28（水）●医薬制度調査会、医薬分業を厚生省に答申。

朝日新聞社

◀勅使河原蒼風「ヌード生け花」に挑戦（3月）前衛的試みを続ける草月流家元が上野の東京都美術館でオブジェとなる3人のアルバイト学生を相手に苦闘。「アサヒグラフ」4月18日号によれば「目的倒れ」だった。

朝日新聞社

▲田谷力三、26年ぶり浅草に帰る（3月）大正7年から13年頃まで浅草オペラで人気絶頂だったスターが、浅草花月で久々の美しいテナーを響かせた。写真は楽屋に激励に訪れた朋友のオペラ歌手・藤原義江（左）と。

◀法隆寺金堂壁画抜き取り（3月6日）昭和24年の火災で焼損したもののうち文殊菩薩を描いた壁画から実施（写真）、収蔵庫に保管された。現在の金堂壁画は再現模写図である。

共同通信社

▼銀座の街灯復活（3月31日）銀座通りに200ワット電球を2個つけた街路灯が106本完成。柳祭り前夜の街がにわかに明るくなった。昭和18年の戦時供出から8年ぶりだった。

朝日新聞社

▼第1回アジア競技大会開幕（3月4日）提唱者のインド首相・ネルーに敬意を表しニューデリーで開催。参加11ヵ国。日本は陸上20、自転車4種目に優勝した。写真は日本選手団の入場行進。

共同通信社

共同通信社

▲「美男力士」吉葉山、絶好調（3月）1月場所13勝2敗でライバル鏡里とともに大関昇進。人気もうなぎ上りで、ポリドールで「ソーラン節」をレコーディング。

昭和26年3月

1（木）●明治製菓、戦後初の国産板チョコレート発売。

●デボラ・カー主演の英映画「黒水仙」封切。

2（金）●日本鉄鋼産業労働組合連合会（鉄鋼労連）結成。

3（土）●東京都民生局、熱海に建設予定の老人ホーム入居資格など、運営の方針を決定。

4（日）●第一回アジア競技大会開幕（～11日）。

5（月）●無着成恭編「山びこ学校」、青銅社から刊行。

6（火）●食糧庁、外米の不良品は返送することを決定。

7（水）●東大の田宮博らが、クロレラを大量培養してタンパク源にする研究を進めていると新聞に。

8（木）●豪軍事法廷、日本人戦犯七人にチモール島の捕虜不法処刑事件で死刑を宣告。

9（金）●伊豆大島の三原山が一一年ぶりに大爆発。

10（土）●総評大会開催（～12日。平和四原則を決定）。

11（日）●東京のボーイスカウト連盟が米へ贈る桜の苗木三〇〇〇本の贈呈式を二重橋前広場で挙行。

12（月）●千代田区の学校給食指定パン屋で赤痢発生。

13（火）●作家・原民喜、朝鮮戦争勃発に悲観し自殺。

14（水）●鉄道公安官にピストル携行許可。

15（木）●大阪に朝日放送設立。電波管理委に免許申請。

16（金）●東京都、給食費を払えない家庭の扶助を決定。

17（土）●阪大理学部で伸縮自由な人工筋肉合成に成功。

18（日）●江東区に天然痘発生。全区民への強制接種決定（全国で患者総数四五人、七人が死亡）。

19（月）●英国務相、ロンドンへの日本在外事務所開設に同意と言明。

20（火）●日本生活協同組合連合会創立。会長・賀川豊彦。

21（水）●日本初のカラー映画、木下恵介監督・高峰秀子主演「カルメン故郷に帰る」封切。

22（木）●哲学者の出隆、都知事選立候補で東大辞職。

23（金）●解散寸前の広島カープ、広島県・中国新聞などの再建策提出で、存続を正式決定。

24（土）●マーシャル米国防長官、近く朝鮮に原子兵器などを送ると言明。

25（日）●千円札偽造団の元海軍中尉ら一〇人逮捕。

26（月）●米国務省、中国本土攻撃を示唆したマッカーサーに、重要声明の事前連絡を要請。

27（火）●鹿児島市で、西郷隆盛像の軍刀が「金ヘンドロ」に切り取られる。

28（水）●日本労働組合総同盟解散。右派は解散に反対。

29（木）●次官会議、メーデーに皇居前広場の使用禁止と決定（中央メーデー中止へ）。

30（金）●東京交響楽団が披露演奏会。

31（土）●東京国立博物館で「アンリ・マチス展」開催。

▲田中茂樹、ボストン・マラソン優勝(4月19日) 参加153人の中から弱冠19歳の日本人青年が飛び出し、2時間27分45秒でゴール(写真)。5、8、9位も日本人選手だった。

朝日新聞社

▼帰国する米兵(4月22日) 交替のため朝鮮戦線を離脱、故国へ向けて佐世保を出港する米軍将兵。戦争は長期化の様相を強め、交替や休養のため日本を訪れた米軍人は、開戦以来2万5000人に達した。

▲「アリの町」に教会落成(5月27日) 東京の隅田川流域で自治的生活共同体を作るバタ屋(屑拾い業)の人々が、長崎市の修道院のゼノ神父から贈られた材木をもとに隅田公園内に自力で建設した。

▶新最高司令官リッジウェイ中将就任(4月11日) マッカーサー元帥の衝撃の解任の後を受けてGHQ・国連軍・米極東軍の最高司令官に。写真は翌日の記者会見。「主要任務はまず朝鮮戦争終結」と語った。

▼配船不足で木炭の山(4月) 陸上・海上とも輸送システムの整備が遅れがち。写真は北九州の若松港に運びこまれた木炭の山。15万俵が出港予定もないまま放置されていた。

朝日新聞社

▼「美しくなる方法」展覧会(4月) 前年4月の「ミス日本」を頂点にミス・ブームが全国に波及。美への女性の関心は高まった。同展は画家・高沢圭一が提唱、東京・渋谷のデパート主催。

毎日新聞社

昭和26年4月

1(日) ●沖縄に「琉球臨時中央政府」設立。
●食糧品配給公団が廃止され、民営米屋が開業。
●東横映画など三社合併し東映株式会社発足。
2(月) ●五百円札発行。肖像は岩倉具視で裏面に富士。
3(火) ●宗教法人法公布。全国の神社も宗教法人に。
4(水) ●浅草のストリッパー四人、公然猥褻で検挙。
5(木) ●東京都、子どもの夜間労働実態調査。女児は花売り、男児はゴム風船売りが多い。
6(金) ●GHQ、ワシントンへの日本在外事務所開設を許可。
7(土) ●英が日本の造船能力の制限を要求とUP電。
8(日) ●韓国、一月以来マッカーサー・ライン越境の日本漁船三〇隻を捕獲、二隻撃沈と発表。
9(月) ●一月以来九一頭が狂犬病に、被害者二一九人。
10(火) ●朝鮮に投入された占領軍の任務を引き継ぐため、米州兵二個師団の第一陣が日本に到着。
11(水) ●トルーマン米大統領、マッカーサー連合国最高司令官を解任。後任にリッジウェイ中将。
12(木) ●奈良県平群村の信貴山・朝護孫子寺本堂が全焼。国宝の「縁起絵巻」など七点は無事。
13(金) ●繊維暴落が深刻化、桐生市で七〇%操短実施。
14(土) ●物価庁、砂糖価格を三〇%値上げ。
15(日) ●北朝鮮、朝鮮問題の平和的解決を国連に要望。
16(月) ●マッカーサー元帥帰国。衆参両院が感謝決議。
●「サザエさん」が朝日新聞で連載開始。
17(火) ●札幌署、反米演説をした北大生四人を逮捕。
18(水) ●仏・西独など、欧州石炭鉄鋼共同体条約調印。
19(木) ●日本が初めてボストン・マラソンに参加し、一九歳の田中茂樹が優勝。
20(金) ●全額政府出資の日本開発銀行設立。
●石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』再刊。
21(土) ●全国民間放送一六社に初の放送予備免許。
22(日) ●統一地方選、投票率全国平均九〇%で新記録。
23(月) ●GHQ、新聞用紙の統制廃止に関する覚書。
24(火) ●国電桜木町駅で切断架線に接触し車両火災。欠陥車両内で一〇六人焼死(桜木町事件)。
25(水) ●米の国連代表部、中国空軍が朝鮮で爆撃を行えば、米は中国領土を爆撃すると言明。
26(木) ●文部省、教師用の道徳教育手引要綱を発表。
27(金) ●スカンジナビア航空が羽田に乗り入れ開始。
28(土) ●東京の物価は朝鮮戦争前の一八%高と総理府。
29(日) ●沖縄社大党など、「日本復帰促進期成会」結成。
30(月) ●政府、テニスのデビスカップ戦参加補助費二五〇万円の支出を決定。単独競技としては初。

朝日新聞社

証言・あの日この日
坂口安吾(45)

11月16日(金) 〈五時ややすぎて目をさます。ドシャ降りの雨音がきこえる。約八時間余熟睡した。爽快。そして元気が溢れている。檀君の家をただ一人立ち去るには、あつらえ向きの日だ。雨は傘で顔を隠すにも、あつらえ向きなのである。……私は檀君のもとに身を隠してから、一月の余、一歩も外出しなかった。……私が姿を隠したのは、初めのうちは暴力団の目をくらます必要によってであったが、今ではジャーナリストの目から隠れるためであった〉(坂口安吾『安吾行状日記』)

着順の不正疑惑で自転車振興会を告発した安吾は、アドルム中毒もあり、権力の巨大な「黒い手」が自分を抹殺しようとしているという妄想にかられ、心配した親友の檀一雄は彼を自宅に匿う。檀の家で安吾はライスカレー百人前を出前注文し、庭にずらりと並べる。(坪内祐三)

▼カクテル・コンクール(5月) 東京の日劇で開催、映画監督の山本嘉次郎、歌手の笠置シヅ子、詩人のサトウハチローらが審査。怪しげな酒を争うように飲んでいた終戦直後からすると隔世の感があった。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲柔道日本一に醍醐敏郎六段(5月5日) 東京のメモリアル・ホールで開催された全日本柔道選手権大会決勝で、東京代表の醍醐(25)が苦戦のすえ、九州代表の吉松義彦(30)に大外返しで一本勝ちした。

◀「芸術か猥褻か」(5月8日) ロレンス著、伊藤整訳『チャタレイ夫人の恋人』に対する公判が東京地裁で始まった。写真右が伊藤、左が版元小山書店社長・小山久二郎。最高裁まで争われ、昭和32年、有罪が確定した。

共同通信社

◀子鹿のバンビ、パレード(5月16日) 26日から日本公開のディズニー漫画映画「バンビ」の宣伝キャンペーンのためアメリカから来日、その後は制作者の好意で上野公園に寄贈された。

▼ラジオ体操復活(5月6日) 昭和3年に放送開始、終戦後GHQによって禁止されていたが、この日、装いを新たにNHK第一放送から全国に流された。放送は毎朝6時15分から10分間。

朝日新聞社

昭和26年5月

1(火) ●北海道から九州まで九電力会社発足。
2(水) ●海上保安庁汚職で長官が辞表を提出。
3(木) ●戸田城聖、創価学会会長に就任。折伏開始。
4(金) ●子どもに賭博遊び激増と東京都『こども白書』。
5(土) ●マッカーサー、米上院聴聞会で「日本人の成熟度は一二歳、勝者にへつらう傾向」と発言。
●児童憲章制定、首相官邸で宣言式。
6(日) ●ラジオ体操、三年八ヵ月ぶりに再開。
7(月) ●食糧庁、警察予備隊への主食増配を通達。
8(火) ●チャタレイ裁判開廷。伊藤整、猥褻性を否認。
9(水) ●江東区で日量一一五〇立方㍍の天然ガス噴出。
10(木) ●横浜市警、人身売買容疑者を逮捕。栃木県の農村の女性二一人を売買と自供。
11(金) ●外務省、ソ連からの未帰還者三二万人と推計。
12(土) ●徳田球一ら共産党幹部潜入容疑で前進座捜索。
13(日) ●岩手県雫石町駅前で火災、一二六戸が全焼。
14(月) ●GHQ、対日ガリオア援助打ち切りと声明。
15(火) ●閣議、北海道開発庁の出先機関、北海道開発局設置を決定(知事の権限を大幅に縮小)。
16(水) ●WHO(世界保健機構)、日本の加盟を承認。
17(木) ●GHQ、中古外車の日本人への払い下げ許可。
●皇太后崩御(貞明皇后)。六六歳。
18(金) ●都内五ヵ所に警察直通の街頭電話設置。
19(土) ●北海道浜中村で上映中のフィルムに引火し映画館全焼。小・中学生ら四二人が焼死。
20(日) ●東京医療少年院から二〇人が集団脱走。
21(月) ●東京都、六~八月の端境期間は外米の配給がふえ、月に六日分と発表。
22(火) ●津軽海峡にソ連製浮遊機雷と海上保安部発表。
23(水) ●国鉄機関車労組、職能組合として結成。
●チベットが中国の自治区になる。
24(木) ●法務府、共産党の「アカハタ」同類紙四紙を発禁、一〇〇〇ヵ所を捜索し三〇〇人検挙。
25(金) ●日本デザイナークラブ、銀座で「日本最初のプロのファッションショー」開催。
●気象庁の村上多喜雄、ジェットストリーム理論による梅雨のメカニズムを発表。
26(土) ●坂口安吾宅で税滞納により家具差し押さえ。
27(日) ●墨田区の「アリの町」で教会の落成式。
28(月) ●千代ノ山の第四一代横綱昇進が決定。
29(火) ●韓国の日本人妻、第一陣八〇人引揚げ開始。
30(水) ●日立製作所、在日米軍と一八億円の自動車・車両部品などの受注契約に調印。
31(木) ●東京で地方婦人議員クラブ結成。四二人参加。

朝日新聞社

▲ニューヨーク定期航路開設(6月12日)ＧＨＱが日本郵船など4社に許可。写真は7月16日、横浜港を出発する第1船、国際海運の「若島丸」。日本の「ドル箱航路」再開の先駆けとなった。

▲貞明皇后大喪(6月22日)狭心症のため5月17日、66歳で急逝。病弱の大正天皇、若くして即位した昭和天皇を支えた。「国民のおばあさま」とも慕われていたため、多くの人々が悲しい葬列を見送った。

▼最後のナチス戦犯、絞首刑(6月7日)死刑を宣告された戦犯275人のうち最後の7人だった。執行に対して西独の世論は猛反発、各地で激しいデモが起こった。

キーストン

◀千代ノ山、横綱昇進(6月8日)夏場所千秋楽で横綱東富士を破り14勝1敗で優勝、強烈な突っ張りを武器に、初の道産子横綱となった。写真は東京の明治神宮で行われた授与式土俵入り。

▶人気絶頂のトキノミノル、死への疾走(6月3日) 日本ダービーで2着のイッセイを1馬身半離して快勝、無傷の10連勝を飾ったが、17日後に破傷風で死亡した。

◀世界初のスポンサーつき定時カラー放送(6月25日)ニューヨークのＣＢＳが自社開発の回転円盤方式で開始。第1回の出演者は連邦通信委理事とエド・サリバンら芸能人だった。

共同通信社

昭和26年6月

1(金)●大阪市で全国初のワンマンバスを運行。
2(土)●東京の日比谷公会堂でジャズ・フェスティバル開催。出演、南里文雄・江利チエミら。
3(日)●NHK、テレビ実験放送で初の実況中継。後楽園球場のプロ野球を電波展会場へ。●日本ダービーでトキノミノル優勝(一〇勝無敗。20日、破傷風で急死)。
4(月)●公営住宅法公布。低所得者層への賃貸供給。
5(火)●無尽会社を相銀に改組する相互銀行法施行。
6(水)●通産・運輸省、外国自動車購入規則を発表。
7(木)●日本信販、設立。初の消費者信用販売会社。
8(金)●綿布輸出はインド一位、日本二位と英綿業委。
9(土)●日本宣伝美術会(日宣美)発足。
10(日)●三〇年ぶりの繊維不況。資金難から八王子で一〇〇〇工場が操業停止、と新聞に。
11(月)●東洋レーヨン、日本で初のナイロン生産技術導入契約を米デュポン社と調印。
12(火)●GHQ、四社にニューヨーク航路開設を許可。
13(水)●横浜市の朝鮮人学校運動会で、警察官の写真撮影に抗議した朝鮮人三九人逮捕。
14(木)●国際小麦理事会、日本の協定参加を承認。
15(金)●東京都、五一六軒の外食券食堂を、定食が一日三回食べられる勤労者食堂に指定。
16(土)●赤痢患者が前年同期の三倍一万一六三人に。
17(日)●竹中工務店、日活国際会館建設工事で、地下四階分をケーソン工法で作る工事に成功。
18(月)●仏総選挙でド・ゴールの国民連合が第一党に。
19(火)●労働基準法改悪反対闘争委員会(労闘)結成。
20(水)●政府、第一次追放解除発表。石橋湛山・菊池寛ら二九五八人。
21(木)●ＩＬＯとユネスコ、日本の加盟を承認。
22(金)●貞明皇后(5月17日崩御)の葬儀執行。
23(土)●ソ連、朝鮮停戦交渉を提案(30日国連軍も)。
24(日)●鈴木茂三郎、国際社会主義協議会大会に出発。
25(月)●日産・トヨタ・いすゞ、外国製自動車要求の警察予備隊に、国産自動車採用を陳情。
26(火)●シアトルで開催の日本貿易博で、一七日開会以来一週間で受注高二〇万ドルを超過と発表。
27(水)●「カウボーイ俳優」ケニー・ダンカン来日。
28(木)●貯金通帳が横書きになる、と新聞に。
29(金)●都教育庁、六〇〇キロカロリーの最低基準下回る給食では児童の体位を保てないと各学校長に警告。
30(土)●都教委、低所得層のため足立区に夜間中学設置を認可(文部省は反対、7月16日開校)。

20世紀博物館
ふぐ博物館
五四種一〇八体の標本など、料理人の情熱が結実した空間

大阪・岸和田市

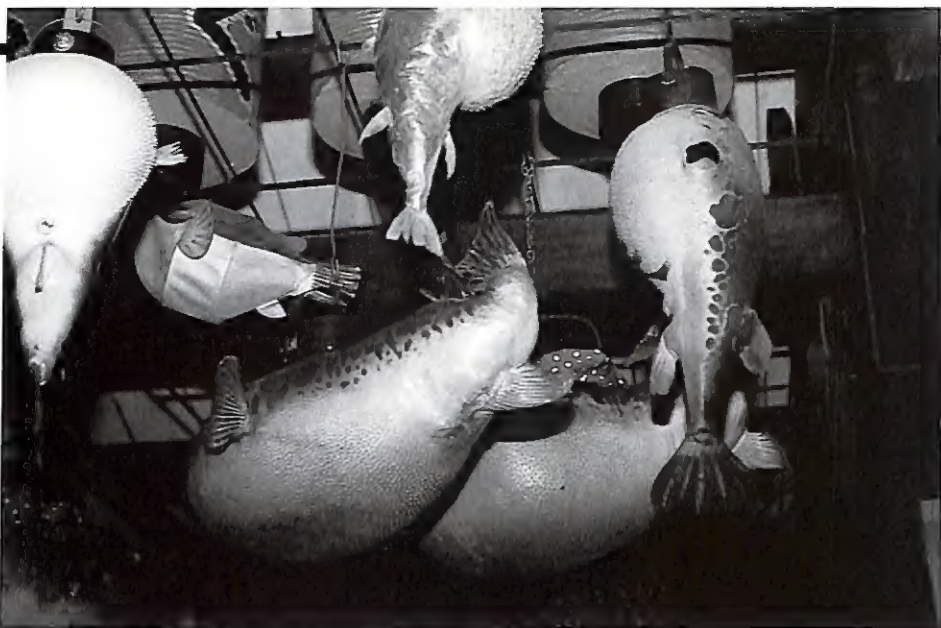
桑原茂夫

日本で、いや恐らくは世界で唯一のふぐ専門の博物館が、大阪府岸和田市の商店街のはずれにある。路地をはさんで博物館の斜め前にある「喜多八」というふぐ料理店のご主人、北濱喜一さんが作った私設博物館だけに、小ぶりではある。

▲頭上にふぐ提灯が並ぶ。幻想的な空間でもある。

しかし、その中身は質量とも博物館の名にふさわしい。

岸和田といえば、「だんじり」を走らせる勇壮な祭りで知られる町だ。その心意気が「ふぐ博物館」にもおよんでいると見た。ふぐに対する北濱さんの情熱には、多くの学者や知識人をも青ざめさせるに十分なものがあるからだ。

その情熱は、はじめふぐ毒によってかきたてられた。大阪はふぐ料理の本場で、それゆえ、ふぐ毒にあたる事故もしばしばだった。ところが毒はもちろん、ふぐに関する情報があまりにも少ない。四方海に囲まれている日本でなぜ？という思いもあって、北濱さんはみずから「日本ふぐ研究会」を昭和二九年に設立、ふぐの研究に、本格的に取り組むことになった。ふぐ毒はもとより、生物学から民俗学や文学まで、その研究範囲は広く、集められた資料も膨大なものになっていった。それには各種標本も含まれるが、全国各地のふぐ愛好家から送られてきた、ふぐを題材とした種々の民芸品もあって、昭和三九年、とうとう博物館開設に踏み切ったのである。

▲ふぐの浮き袋。内臓の類も細かく分類展示されている。

▲博物館入り口に立つ北濱喜一さん。この小さな建物に入ると、そこにふぐ宇宙が広がる。

さて、博物館は間口二間ほどのしもたや。看板を見なければ、ここが世界に稀なる博物館とは想像もつかない。玄関で履物を脱ぎ二階に上がる。

と、そこは別世界。びっしり、ふぐなのである。六〇平方メートルほどの空間の中央に、ふぐの骨格標本が並ぶケースがあり、周囲の壁に沿ったケースには、ふぐの民芸品、ふぐ料理用の食器、酒器などから、縁起物のはこ飾り（ハコフグを用いている）、ふぐを描いた切手などがずらり。頭の上を見上げると、いろいろな形をしたふぐ提灯が吊るされている——昔はふぐの頭を上にした、縦長の提灯だった！——というわけで、とにかくふぐでにぎやかな空間なのである。

しかし圧巻は、中央に並べられた骨格標本だ。軟骨まで復元した〝完全骨格標本〟で、他に類を見ない精巧なものだ。これが五四種一〇八体ある。じっと眺めていると、一体一体の骨格に肉がつき、海を泳ぐ姿が見えてくる——そんな幻想を楽しむことができるほど、素晴らしい標本なのである。

北濱さんはふぐをたたえて言う。「ふぐは、あんなに小さいのに、ひとつの生命体としてとても力強く、ボラなどの大きな魚でも、一撃のもとに倒す。これはすごいものですよ」と。

そんな思いが北濱さんに〝完全骨格標本〟を作らせ、ふぐに新たな生命を吹きこんだのだろう。

▲不思議に生命力を感じさせる、迫力満点のふぐの〝完全骨格標本〟がずらりと並ぶコーナー。

●ふぐ博物館
大阪府岸和田市北町一〇一二
☎〇七二四－二二－三九二九
南海本線岸和田駅下車、徒歩一〇分
開館時間＝一一時～一五時
（電話予約制）
休館日＝火曜日

ベストセラー

戦争の時代を振り返る『ものの見方について』

一九五〇年代に入って、戦争の時代を冷静に振り返る出版物の刊行がさかんになってきた。

笠信太郎の『ものの見方について』やマーク・ゲインの『ニッポン日記』は、その代表的な存在だった。

『ものの見方について』は、西欧人の考え方や気質を、具体例をあげながら詳細に記し、ひるがえって日本人について論じた。中でもイギリス人の、日本人と対照的な側面が強調されたが、それによって、戦争に突っ走り、敗戦の憂き目を見た日本を浮かび上がらせたのである。

イギリス人は、ものごとを多面的に見て、バランスのとれた考え方をする。思想も人間中心であって、ある一定の思想が人間を支えているのではない。ここには思想の自由がある——こういう見方が、戦前戦中の日本人に対して否定的になるのは当然だった。しかし同時に、西欧化・民主化にとまどう戦後の日本人には、具体的な指針となったのである。

一方、『ニッポン日記』は、進駐軍に随行してきたアメリカのジャーナリストが、進駐軍の戦略・戦術と日本の対応ぶりを、率直に記したもの。昭和二〇年一二月から約半年間を詳細に記し、日本の〝民主化〟の実態を暴露した本だけに、歴史的証言としての価値も高かった。

またフィクション分野では、大岡昇平の『武蔵野夫人』が圧倒的な人気を得た。東京郊外を舞台に、戦後社会の一端を浮き彫りにした小説で、人妻の恋と姦通がテーマになっている。そういう点では同時代を描いた風俗小説のようだが、登場する一人一人の、戦争を踏まえた戦後の生き方が、深く掘り下げられており、読みごたえのある作品になっていた。

●昭和26年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『少年期』(波多野勤子/光文社)
2位	『ものの見方について』(笠信太郎/河出書房)
3位	『新訳源氏物語』(全12巻/谷崎潤一郎/中央公論社)
4位	『武蔵野夫人』(大岡昇平/講談社)
5位	『新・平家物語』(全24巻/吉川英治/朝日新聞社)
6位	『人間の歴史』(全6巻/安田徳太郎/光文社)
7位	『ニッポン日記』(上・下)(M・ゲイン/筑摩書房)
8位	『私の人生論』(池田成彬/文藝春秋新社)
9位	『風と共に去りぬ』(全3冊/M・ミッチェル/三笠書房)
10位	『山びこ学校』(無着成恭/青銅社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『ものの見方について』(200円)

▲『武蔵野夫人』(230円)

▲『ニッポン日記』(上200円、下220円)

スターと名場面

日本映画初のカラー作品「カルメン故郷に帰る」

戦後の新しい社会は、風刺のかっこうの対象ともなった。獅子文六の新聞連載小説「自由学校」が人気を呼び、競って映画化されたのもそのためだった。大映(吉村公三郎監督)と松竹(渋谷実監督)の競作となったが、〝自由〟を求め、会社や家庭から逃げ出そうとする男と、〝男女同権〟を主張する妻が主役の風刺劇であることには変わりなかった。

やはり戦後を強く感じさせる映画として評判になったのは、高峰秀子主演の「カルメン故郷に帰る」(木下恵介監督)だった。日本映画最初のカラー作品でもあったが、高峰秀子らがまとう戦後の最先端ファッションを華やかに見せるのに、カラーはぴったりだった。

時代劇では「源氏物語」(吉村公三郎監督)が注目された。長谷川一夫が光源氏を演じたが、木暮実千代や乙羽信子らが演じる王朝の女性たちの、長い髪と十二単が醸し出すエロチックな雰囲気が新鮮だった。なお〝谷崎源氏〟と言われる現代語訳を持つ作家の谷崎潤一郎が監修にあたっている。

この年、ほかに次のような映画が話題になった。かっこ内はおもな出演者。

「大江戸五人男」(阪東妻三郎)「めし」(原節子)「偽れる盛装」(京マチ子)「黄色いリボン」(ジョン・ウェイン)「白昼の決闘」(グレゴリー・ペック)

大映提供

▲「源氏物語」で光源氏を演じた長谷川一夫(左)と、藤壺役の木暮実千代(右)。

松竹提供

▲「カルメン故郷に帰る」より。自然の中に、都会の華やかさを持ちこんだ踊り子役の高峰秀子(左)と、その友人役の小林トシ子(右)。

松竹提供

▲松竹の「自由学校」より。佐分利信(左)と、新しい時代の元気な女性を演じた高峰三枝子(右)。

モノ語り'51

贅沢な味「バヤリースオレンヂ」「ミルキー」、そして「LPレコード」が発売された！

▶戦後とは思えない贅沢な味のお菓子　水飴と練乳をたっぷり使った、画期的においしいキャンディー「ミルキー」が不二家から10円という廉価で発売され、パッケージ・キャラクターの「ペコちゃん」とともに大人気、ロングセラーになった。創業者の藤井林右衛門のまる2年にわたる試作と吟味の結果生まれた、贅沢な味のお菓子だった。「ペコちゃん」は昭和25年に、不二家の店頭に張り子の人形として置かれたのが最初。これがパッケージにも使われた。

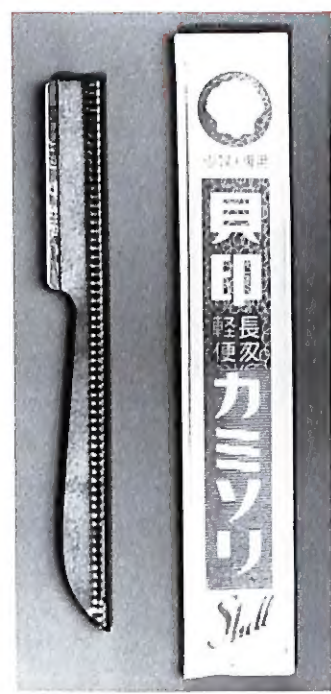
◀うま味のもとが食卓に　缶入りなどの形で調味料「味の素」を発売していた味の素が、コルク栓の小瓶に入った家庭用バージョンを売り出したのが昭和25年。翌26年には振りかけ式で使い勝手のよい小瓶を登場させて、一気に調味料革命を起こし、食卓の必需品となった。30グラム入りで95円と手頃な価格だった。

◀レコードに革命が起こった　レコードというとSP盤が主流だったが、収録時間も短いし、割れやすいという大きな欠陥を持っていた。そこに登場したのが、長時間収録で、しかも割れにくいビニール製の「LPレコード」だった。日本コロムビアから5タイトル発売されたが、たとえば、ベートーヴェンの「交響曲第9番」は2枚組で1枚が2300円と高価だったものの、その性能の画期的な高さに十分見あう価格と受けとめられた。

◀進駐軍のジュースが飲めるようになった　戦後、進駐軍と一緒に日本に入って来た「バャリースオレンヂ」だが、法的に日本での生産はできなかった。しかし法も改まり、昭和26年に朝日麦酒(現・アサヒビール)が、その製造元との業務提携に成功、販売の権利を獲得した。ラムネやサイダー(同社は三ツ矢サイダーを販売していた)が主流だった清涼飲料水の市場に果汁飲料が加わったのである。1本55円(うち瓶の保証金が15円)で、人気商品となった。

▶持ち歩きもできる便利なカミソリ　カミソリといえば、本体に替え刃をつけて使うものが一般的だった時代に、柄と刃を一体化させた「長刃軽便カミソリ」が、三和ブレード製作所(現・貝印)から手頃な価格で発売され、ヒット商品となった。重量をふやし操作性をよくする鉄芯の量の多寡で、赤貝(5円)青貝(7円)ゴールド(10円)の3種類があり、ゴールドには柄に滑りどめのギザギザがついていた。

▼連続して撃てるピストル玩具　紙火薬を使った破裂音で楽しむピストル玩具に「百連発ピストル」が登場し、子どもたちの間でベストセラーになった。一巻き5円の巻き玉火薬をセットすれば、たてつづけに引き金を引いて撃つことができ、西部劇ごっこにはかっこうの道具だった。ブリキ製で30円前後。

日本玩具資料館提供

▲キャッチフレーズは後からできた　風邪の諸症状に効く成分を配合した風邪薬「ルル」が、20錠入り100円で三共から発売された。「ルル」という名称は、〝鎮める、治す〟という意味を持つラテン語に由来している。その名を大いに高め、広めたのは、昭和31年にできた「クシャミ3回ルル3錠」というあまりにも有名なキャッチフレーズだ。これで一気に大衆薬のスターになった。

人物クローズアップ

無着成恭（二三）

中学生が綴った"寒村の生活"
卒業記念の『山びこ学校』出版

昭和二六年三月五日、東北の一寒村にある中学校の生徒四三人が綴った文集『山びこ学校』が、青銅社から出版された。その村は山形県南村山郡山元村（現・上山市）。『山びこ学校』は、三年前、この村の山元中学校に赴任して来た新任教師の無着成恭（二三）が、授業の一環として試みた「生活綴方」を生徒たちの卒業を機にまとめ、編集したものだった。

▲『山びこ学校』表紙。「雪がコンコン降る　人間はその下で暮しているのです」という詩で始まる。

無着成恭は、昭和二年三月三一日、山形県南村山郡本沢村菅沢（現・山形市）の、沢泉寺という曹洞宗の寺に生まれた。山形師範（現・山形大学教育学部）に入学したのは二〇年四月だった。無着は旧制中学卒業まで、徹底した軍国教育をたたきこまれて育った。ことあるごとに聞かされたのは「天皇陛下のために死ぬのだ」ということだった。ところが二〇年八月一五日を境に、突然「死ななくてもよい」ということになった。生きる目的が急に失われて、無着を含め、国民は虚脱状態になった。無着が赴任した時、生徒たちにもその虚脱感が広がっていた。

こうした状況の中で、無着が気づいたのは「天皇のために死ななくてもよくなったということは、自分のために死んでもよいという時代になったのだ」ということだったという。無着はこう語る。

「これからは、自分の生き方は自分で決める時代でなければならない。学力というのは試験の点数ではなく、自分をかけるもの、自分を生かすものを見つけ出すための判断力、選択力、決定力のことで、教育とはそうした力をつけてやることだと考えたんです」

そのためには、自分たちの生活環境と自分自身をきっちりと見つめることが大事で、それが「生活綴方」につながったという。そして、直接のきっかけになったのは、「社会科」の学習指導をする際、教科書に書かれている「いなかの生活」と、実際の生活との落差があまりに大きすぎることだった。

山元村は、山間の窪地にある戸数三〇〇戸ほどの集落で、わずかな収穫高の水田と、葉タバコ作り、炭焼きなどが主たる収入源だった。生活は貧しかった。無着は、綴方を書くことによってまずこの貧しさを知り、そして、どうすればよりよい生活ができるようになるのか、生徒たち個々に考えさせようと試みたのである。生徒一人一人の考えは、クラス全員で議論された。そうすることで彼らの認識はさらに高まっていった。

『山びこ学校』は、戦前に国分一太郎らが実践した「生活綴方」の方法を、戦後という時代の中で復活させたものだったが、この方法は、戦後のアメリカ式新教育と、日本の独自性との間で悩む教育界に大きな影響を与えた。無着は、昭和二九年、山元中学校を辞めて上京し、駒沢大学に入学。卒業後、東京の明星学園に勤務、『山びこ学校』の方法をさらにおし進めて、その記録『続・山びこ学校』を出版する。

昭和六二年からは、無着は千葉県の成田空港に近い福泉寺を私費を投じて再興し、住職をつとめている。いかにも無着らしく、「寺は生きている時に来るところです」と語った。

▲家族と。前列左 父の成孝、右・母の静、後列左・妹の智香子、右 成恭

▲山元中学校の生徒たちと　無着成恭は受け持ちの43人の生徒に徹底した綴方教育をほどこし、学級文集「きかんしゃ」を出し続け、これが「山びこ学校」に結実した。　朝日新聞社

「人間生活の偽らない姿を」写真家ビショフが直視した〝インドの飢餓〟の母子像

ウェルナー・ビショフ　マグナム　フォト(2点とも)

女が赤ん坊を抱いている。痩せた手を差し出す彼女の表情には〝絶望と苦悩〟が満ちている。幼子を持つ女性にしては老婆のようにも見えるこの母親からは、耳を澄ませば悲痛なうめき声が聞こえてきそうだ。

写真は、一九五一年、インド東部の最貧困地域ビハール州で撮影されたものである。ビハール州は日本の本州ほどの広さで人口八六〇〇万人、そのうち三五〇〇万人が貧困層だと言われている。

黄色く乾燥した農地が続き、五月、六月は酷暑期となり、気温は摂氏四五～四七度にも上がる。熱波のために死亡する貧民はビハール州だけで一日四〇人にのぼるという報告もある（『インドの大地で』中公新書）。

乾燥した大地に灌漑設備は乏しく、数少ない井戸も涸れると、農民と牛は村を捨てて放浪するしかない。七月、八月の雨期に雨が降らないと、そのまま飢饉へ、というのがビハール州の現実だ。

一九五一年は、インドが独立（一九四七年）して五年目になる。ネルー首相のもとで、外交的には非同盟諸国のリーダーとして大きな成果をあげていたが、国内の食糧事情は深刻なものがあった。河川の氾濫、干ばつなどの天災が、疫病をともなって人々を飢えと死に追いこみ、さらに投機に走る米商人たち、情報伝達の遅れ、輸送設備の不備などが被害を拡大していた。

当時のインドの穀物自給率は、独立当時より落ちこみ、不足する穀物は年間約六〇〇万トンであった。一日の稼ぎの八〇％以上が食費にあてられるという貧しい人々にとって、穀物価格の上昇はただちに飢餓に直結する。

この写真を撮影したウェルナー・ビショフ（三五）は、写真家集団「マグナム」に加わり、この年インド、日本、韓国へと取材旅行に旅立った。

まずインドに入ったビショフは、カルカッタで救済用の食糧が搬入される模様を取材し、さらに飢えた村まで「いかに食糧が届けられたか」を知るためインド政府高官に従ってビハール州に入った。

そんなビショフの目に映ったものは、援助の食糧が配給される前に餓死していく人々の群であった。

飢えた人々にファインダーを向けるには、傍観者でいることはできない。陰影の中に独特の美しさを表現していた彼の写真は、この時点で変容を迫られた。ビショフは背景をそぎ取り、感傷を排し、大胆に対象に迫った。「私の仕事は、人間生活の偽らない姿を写真にすることだ」（『写真一三〇年史』ダヴィッド社）という信念が生かされることになる。

〝インドの飢餓〟と名づけられた母と子の姿は、マグナムの関係者に絶賛され、「ライフ」誌を通じて世界に発信された。カメラによる平和主義者と言われるビショフは、この写真を通じて飢餓の悲惨を訴えるとともに、「あなたにできることは何か？」をも問いかけている。

▲インドのカルカッタ港での穀物荷おろし作業風景。干ばつはまず下層農民(農民の約7割)を襲う。救援の食糧は彼らの命の綱だ。

▲飢えに苦しむ母と子の姿（マトゥラで撮影）。報道カメラマン・ビショフがとらえたこの1枚は「高い芸術性を内包した報道写真」として、写真史上に残る記念碑的作品である。

マチスみずから出品作を選び展覧会のポスターまで制作！戦後初の海外巨匠展が大盛況

▲大勢の観客でにぎわうアンリ・マチス展の会場（東京・上野の東京国立博物館）。

戦後六年目を迎えたこの年、海外の美術品の展覧会が相次いで開かれるようになった。中でも三月三一日から五月六日にかけて東京・上野の東京国立博物館で開催された「アンリ・マチス展」は大盛況だった。

一九〇五年のアンデパンダン展で「フォービスム（野獣派）」と称されたアンリ・マチスは、ピカソとともに現代絵画の牽引車とされている。そのマチス（八一）の代表作である「赤いパンタロンのオダリスク」を含む油彩画をはじめ、美学校時代のデッサンから近作の墨絵作品、世界から注目されている南フランス・ヴァンスの礼拝堂のためのステンドグラスや壁画の下絵、晩年の切紙絵など一〇三点の作品と装画本八点が展示されたマチス自身が選んだ作品による戦後初の海外巨匠展である。

開催日前日の招待日に、吉田茂首相は日本国民を代表してマチスに感謝の意を伝え、天野貞祐文相はこの「マチス展」が日本文化に与える意義を強調したメッセージを発表。四月九日には天皇・皇后、一三日には皇太子が熱心に鑑賞されるなど、国をあげての歓迎ムードとなった。東京展では一五万人を超える入場者を記録する一方、街ではいたるところマチス風の広告やデザインがあふれた。

東京展の後、大阪市立美術館（五月一四日～六月一七日）、次いで倉敷市の大原美術館（六月二〇日～二七日）と巡回する。大阪では作品を積んだトラックを飾りつけ、市中行進を行うなどして市民の関心を喚起した。そのせいか入場者は東京展以上で、一七万人を超えた。

そもそも、どのようないきさつで、世界の現代絵画の巨匠の一人であるマチスの展覧会が、この時期の日本で開かれるようになったのだろうか。そこには戦後の日本美術界を活性化させた「読売アンデパンダン展」の企画者である「読売新聞」美術記者の海藤日出男の存在がある。海藤が洋画家の硲伊之助のもとを訪ねた折、硲は海藤に「師マチスの推薦状でビザがおりたため渡仏する」むねの話をした。これを受けた海藤は、その場で硲に「戦後日本の画壇のために世界の現代美術を代表するマチスを見せたい」と、マチスとの直接交渉を依頼した。

「硲さんがぼつぼつマチス氏にその意図を通じ始め、結局半年がかりで実現されたわけです」と硲の友人で洋画家の倉林正蔵が、「読売新聞」の取材に答えて語っている。（「読売新聞」四月九日）

「この展覧会はマチス先生が自分の弟子である硲さんの情熱に動かされたということが一つ、それに日本がマチス先生に払った敬意と熱意、また先生の日本美術というか日本文化に対する愛情というようなものが重なって実現したと思います」と倉林は続ける。新聞社による主催は、これまで海外では例がないため、博物館と共催にしてマチスを安心させるなど、硲の苦心と熱意のほどがうかがえる。それにこたえてマチスは、出品作を選び、みずから展覧会のポスターを描き、展示にも細かい指示を与えるほどだった。

展覧会場を幾度となくまわった洋画家の安井曾太郎は「我々は、もはや、日本画、洋画の名称はいらない　みなこのマチスを学べばよい」（「芸術新潮」昭和二六年五月号）と感動の声をあげ、日本政府からマチスに感謝状でも出してもらいたいものだと注文をつけた。

装飾性と美しい色彩、明快なデッサンが日本人の嗜好にあうのか、マチスは今でも人気の高い画家の一人である。

▲「サーカス」。33×50.5センチ。「マチスがはさみでデッサンする」と言われた切紙絵。

▲「赤いパンタロンのオダリスク」。1922年作、油彩、37×84センチ。パリ国立近代美術館蔵。1911年と12年の2度、モロッコへ旅行したマチスの、装飾的な要素を取り入れた作品。

「食の時代」から「衣の時代」へ
ミス・ユニバース3位の伊東絹子もデビュー！
初のファッションショー、モデルが誕生

◀昭和26年5月25日、東京・銀座のキャバレー美松で開催された日本デザイナークラブ（NDC）主催の「春夏ファッション発表会」。
NDC事務局提供

昭和二六年五月、日本初のプロ・デザイナーによるファッションショーが東京・銀座で開催された。ショーそのものは不慣れなため、今から見ればドタバタ続きの〝一場のコメディ〟風の展開に終わったが、これは戦後の飢餓の時代を脱した日本人の目が、ファッションに向けられた象徴的な出来事でもあった。

ファッションショーに警察官が交通整理

蒸すような暑い日となった昭和二六年五月二五日、東京・銀座のキャバレー美松の店内は、立錐の余地もなかった。めあては日本デザイナークラブ（NDC）主催の「春夏ファッション発表会」。日本初のプロのデザイナーによるファッションショーというふれこみだった。

銭湯が一二円の時代にショーの入場料は三〇〇円だったが、路上にまで人があふれ、築地警察署が交通整理に出動するほどの盛況ぶり。入場できない人は備えつけられた拡声器から流れる解説のアナウンスと音楽に耳を傾けていた

「現場」を歩く
横浜
今も引き継がれている「桜木町事件」犠牲者一〇六人の〝供養〟

山本徹美

昭和二六年四月二四日午後一時四〇分頃、横浜市桜木町駅ホームに進入中だった京浜東北線電車の最前部車両の屋根から火花が散った。次の瞬間、同車両は猛火に包まれ、炎上。隣の車両にも飛び火した。火勢はものすごく、わずか一〇分間で一両目が全焼、二両目は半焼した。

定員・五六人の車両はほぼ満員で、乗客一〇六人が死亡（うち入院後八人）、負傷者は九二人にのぼる大惨事となった。

発火の原因は、碍子交換作業のため断線し垂れ下がっていた架線に電車のパンタグラフが接触、スパーク。その火が天井から車体を包みこんだのである。

新聞は「桜木町事件」と命名、「人災」の扱いをした。が、最大の要因は「モハ六三形」と呼ばれ、物資の不足した昭和一九年から製造された車両自体の欠陥にあった。屋根は板材、天井はペンキ塗装と燃えやすいうえに、車両間連絡通路（デッキ）がなく、八ヵ所ある出入り口は乗客が開けることはできない。窓はガラス節約のため三段仕切りで中央を固定してあり、人が通過するのは不可能。すなわち、ひとつの車両が孤立する「密室」状態だった。

この火災事故をきっかけに、国鉄、私鉄ともに乗客の自主避難ができるようドアコックを設置。三角マークをつけ、「非常の場合、ドアは手で開けられます」と、表示するようになったのである。

▲電車が燃え上がったのは、写真のホームのあたり。 奥村健太郎

駅長以下が慰霊祭を

平成九年夏、桜木町駅に行ってみた。

同駅は明治五年五月、「横浜停車場」として開業。わが国鉄道駅発祥の地なのである。折しも一二五周年記念行事を開催中だった。

東日本旅客鉄道（株）桜木町駅の尾島静助役（四八）は、平成五年二月の定期人事異動で桜木町駅に配属された。

「火災事故については幼い頃、鉄道員だった父から聞かされていたし、入社時の研修などで知っていました。ここへ赴任してすぐに引き継ぎ事項や年間行事の説明があった。その時、火災事故で亡くなった方の慰霊碑があり、毎年、御供養をしていると聞き、深い感銘を受けました」

慰霊碑は市内鶴見区にある総持寺内に建立してある。

「命日は四月二四日ですが、毎年それよりも早めに駅長以下職員が、バケツ、雑巾、ほうきなどを手にお寺へお参りし、石碑をきれいに掃除して献花。老師に法要を営んでいただいております」

「桜木町事件」はいわば貧困が生んだ悲劇であろう。現在の駅舎は平成元年七月に完成したもので、火災現場はちょうどプラットホームあたり。改札口を抜けると、平成八年七月完成のレストラン街「ダイニングコート28」がある。左手には日本一の高さ（二九六メートル）を誇るビル「横浜ランドマークタワー」がそびえている。総合開発計画「みなとみらい21」によって、すっかり近未来都市と化した桜木町駅に貧しかった頃の面影はない。

朝日新聞社
▲昭和26年4月24日、炎に包まれる車両　この写真は新聞に掲載された最初の読者投稿報道写真

▲昭和25年3月に、NDCが荒井まき子（後の北原三枝）らの日劇ダンシングチームのメンバーをモデルに、日劇で開催したファッションショー。 NDC事務局提供

当日、日米通信社の記者として会場に足を運んだファッション評論家の林邦雄（現・七五歳）は、「耳で聞くファッションショーなんて後にも先にもこの時だけでしょう」と苦笑する。そしてショーの内容と言えば……

「モデルはダンサーや、当時〝女給〟と言われていたキャバレーのホステスでした。服を見せるという意識はなく、大仰な身振りで腰を振って舞台を歩いていました。その演技は、今からすれば〝一場のコメディ〟と言わざるをえません」

モデルが素人ならば、ショーの主催者も初めてのこと、舞台裏も上へ下への大騒ぎだった。当時、NDC関東支部役員で当日のショーにも出品したデザイナーの三富康恵（現・七[illegible]歳）はこう語る

「作品発表会なのに、『あっ、その帽子いいね、貸して』なんて他人のデザインした帽子を借りる人もいました。今では考えられないことですね」

しかしそれでも観客は舞台に目をこらしていた。後ろの席の観客が乗ったために、ショーが終わった後には破損した椅子やテーブルが残され、NDCが美松から器物破損で訴えられるというおまけもついた。まさに「日本のファッション界の模索期の始まり」（林）を象徴するかのような一日だった

日本初のプロ・モデルは全国からの公募で決定

昭和二六年には「模索期の始まり」を象徴するもうひとつの出来事があった プロのファッションモデルの誕生である

きっかけは、「英文毎日」とパン・アメリカン航空が主催する「ティナ・リーサ賞」の発表会だった。アメリカ人の女性織物研究家、ティナ・リーサが若手デザイナーを育成するために設けたこの賞は、「英文毎日」の主催で昭和二四年、二五年、二六年、二七年の四回、デザインが一般公募された。二四年、二五年ともに入選作の発表会が行われたが、モデルになったダンサーたちの〝迷演技ぶり〟はここでも繰り広げられた。そこで二六年の発表会では、専門のファッションモデルを公募することになったのだ。

「モデル募集」の告知に全国から集まった応募者は二〇七四人。その中から東京で一〇人、大阪で一五人が採用されて、「毎日ファッション・ガール」と命名された。彼女たちの中には、昭和二八年にミスユニバース第三位となる伊東絹子（一九）や主婦で子連れが話題となった相島政子（二六）、香山佳子（二二）らの姿があった。相島は応募の動機をこう語る。

「モデルがどんなものかも知らず、単純にお洒落をしてみたかったんです」

舞台演出家の伊藤道郎らの指導で歩き方や化粧の仕方などモデルになるための訓練を受けた彼女たちは、この年一〇月四日、帝国劇場で華々しくデビューした。

毎日ファッション・ガールはティナ・リーサ賞の発表会が終わると解散したが、前年の二五年に勃発した朝鮮戦争による「特需」で、繊維業界は「糸へん景気」に沸いていた。ファッションモデルの需要も急速に高まっていた。

二七年には、彼女たちを中心に、NDC内に東京ファッション・モデル・クラブ（TFMC）が組織されてモデル斡旋がスタート。さらにTFMCからファッション・モデル・グループ（FMG）が派生（伊東、相島、香山ら）、翌二八年にはスミレ・モデル・グループ（SMG）が誕生して、伊東のミスユニバース三位を頂点に空前のモデルブームが到来した。

当時のギャラは、ステージ七、八千円で OLの月給とほぼ同じ。職業として成立したばかりか、同年代の女性をはるかにしのぐ収入を手にしたのだった。

FMGの代表だった相島は、当時の様子をこう振り返る。

「今のようにモデルの人数も多くなかったので、あちこち引っ張りだこ。毎週日曜日は写真撮影会、そのほかにもデパートのファッションショーや婦人雑誌のモデルや繊維メーカーの布地発表会と、ほとんど休みなしでした。モンペをはいて農村向けの雑誌『家の光』の仕事をしたこともありましたよ」

二六年から始まったファッション界の隆盛は、日本の復興の一側面だった。二五年には繊維の生産制限が撤廃され、衣料配給制度も廃止されていた

「布地が自由に手に入るようになり、流行の担い手がそれまでの〝パンパン・ガール〟から一般大衆に変わってきました。洋裁学校は花盛りで、二四年には全国二〇〇〇校、生徒数二〇万人だったのが、二六年には二四〇〇校、三六万人に急増。ファッションに対する関心は確実に高まっていたのです」（林）

敗戦から六年、それまで食べることに汲々としていた日本は、ようやく「食の時代」から「衣の時代」に入っていったのである。

◀日本初のプロ・モデルとなった伊東絹子（写真）が登場した昭和26年10月4日の帝国劇場でのティナ・リーサ賞の発表会。

▲▼洋裁学校が人気になるにつれて、女性誌も競ってファッションページを設けた。写真は「それいゆ」昭和26年の19号の表紙とモード紹介のページ。

フォト+日録で再現する365日

▶**日本人記者、韓国へ(7月11日)**GHQの許可により、戦後初めて朝鮮半島に入った。身分は米陸軍所属の国連軍従軍記者で、服装も軍服。検閲のため、記事は英文で書かされた。

◀**14年ぶり日米対抗陸上(7月16日)**東京の神宮外苑競技場で開催、三段跳び、槍投げのほかは、米国が上位を独占した。写真は800メートル1位のホイットフィールド(左)と3位の室矢。

毎日新聞社

▼**アナタハン島からの帰還(7月6日)**マリアナ諸島の孤島で、敗戦を知らずに生きのびてきた元日本兵を含む20人が、米海軍機で羽田空港に到着。劇的な対面があちこちで展開された。

毎日新聞社

▲**秋田県大湯の環状列石群を調査(7月26日)**石器時代説と奈良時代説が対立していたが、この日の火山灰層の調査で石器時代の遺跡と確認された。現在は縄文時代後期から晩期の遺跡とされている。

▼**初のプロ野球オールスター(7月)**4日から甲子園球場と後楽園球場で行われ、新鋭・金田や別所らの力投でセリーグが2勝1敗、最高殊勲選手はセの杉下投手が獲得した。写真は1回戦の別当選手。

毎日新聞社

▼**中部以西に豪雨(7月)**8日から17日まで、梅雨前線が大暴れ、死者・行方不明者306人を出した。写真は最も被害の大きかった京都府篠村で、109人が死亡または行方不明となった。

共同通信社

昭和26年7月

1(日)●北朝鮮と中国、国連軍の休戦会談提案を受諾。
●文部省、学習指導要領改定試案を発表。小学校の毛筆習字、中学校の日本歴史が復活。
2(月)●朝鮮休戦交渉の進展で東証の株価急落。
3(火)●李承晩韓国大統領、三八度線停戦を非難。
4(水)●第1回プロ野球オールスター戦開催。
5(木)●体協、第一七回オリンピックの日本招致決定。
6(金)●敗戦を知らずにアナタハン島で暮らしていた元日本兵など二〇人が帰国。
7(土)●十大財閥の役員ら二七〇〇人の就職制限撤廃。
8(日)●西日本に豪雨。一七日までに、京都・鹿児島・高知などで被害甚大。
9(月)●英仏豪三国、対独戦争状態終結を宣言。
10(火)●朝鮮休戦会談、開城で開始(~8月23日)。
11(水)●米国務省顧問のダレス、講和条約と同時に日米安全保障条約を結びたいと言明。
12(木)●左翼系ニュース紙「連合通信」を無期限停刊。
13(金)●上野・大阪などの動物園が輸入した動物一〇六頭が川崎港に到着。
14(土)●GHQ、日本・琉球の新通商計画成立と発表。
15(日)●静岡県で天竜川にバスが転落。二四人死亡。
16(月)●日米対抗陸上大会、一四年ぶりに開催。
17(火)●フィリピン最高会議、米の対日講和草案に反対方針を承認(23日、ビルマも反対を米に通知)。
18(水)●神戸工業、米RCA社からテレビ関係の技術を導入(以後三八社が契約)。
●大阪球場に関西初の夜間照明設備が完成。
19(木)●政府、綿花や綿製品の割当・価格統制を停止。
20(金)●日本、デビスカップに一三年ぶり出場。
21(土)●長谷川如是閑ら三四人が初の文化功労者に。
22(日)●鎌倉海岸で海水浴保険発売。
23(月)●自由党、国民民主党に講和全権団への参加を要請(24日、社会党にも要請。社会党拒否)。
24(火)●アメリカ商業美術展、日本橋三越で開幕。
25(水)●広島県倉橋島で解体中の魚雷爆発。五人即死。
26(木)●文部省がサンフランシスコの「講和記念日本古美術展」に国宝級一〇〇点出展と新聞に。
27(金)●コカ・コーラ、類似飲料ニホン・コーラの製造販売差し止めを求め、東京地裁に提訴。
28(土)●東宝など、浅草寺からヒョウタン池を買収し埋め立てを決める。劇場・映画館の興行街に。
29(日)●預金が急増、四~六月は前年同期比七倍に。
30(月)●安倍公房「壁」に第二五回芥川賞と決定。
31(火)●戦後初の民間航空会社、日本航空設立。

毎日新聞社

証言・あの日この日
遠藤周作(27)

3月26日(月) 〈朝九時にリヨンにかえり、そこで見出したのは、「群像」大久保氏の手紙と、島崎の手紙と原民喜氏の遺書とであった。
　彼は十三日の午後、十一時四十五分、自殺したのである。/ぼくの遺書には悲歌と碑銘と、走り書きがしてあった。/走り書きには「これが最後の便りです。昨年の春はたのしかったね。ではお元気で……」とあった。……/原さん。さようなら。ぼくは生きます。しかし貴方の死は何てきれいなんだ。貴方の生は何てきれいなんだ〉(遠藤周作『作家の日記』)

　みずからの被爆体験をもとに描いた名作『夏の花』の作者・原民喜は中央線西荻窪駅近くの線路に身を横たえ、45歳でその命を絶った。原の死は、遠く離れたフランスの地で人生について文学について煩悶する後輩文学者、遠藤周作の心を強く動かす。　(坪内祐三)

毎日新聞社

◀**大臣室前の闘争(8月28日)**全電通労組は、10月以降1500円ベースアップの政府案に対し、8月からの支給を要求。佐藤栄作電気通信相との団交でも決着せず、執行委員20人が大臣室前に座りこんだ。

▶**スチュワーデス1期生誕生(8月20日)**日本の航空活動が解禁され、7月31日には日本航空が発足。飛行機は米国から借り、操縦士も米人を雇ったが、スチュワーデスは1300人の応募者の中から15人が採用された。

日本航空提供

中日新聞社

▲**満員の中日球場で火事(8月19日)**名古屋対巨人の3回裏、ネット裏から出火し木造内野スタンドを全焼。観衆は火事に驚いて逃げまどい、死者3人、負傷者385人を出した。

▲**越路吹雪、宝塚最後の舞台(8月28日)**新珠三千代、天津乙女と並ぶ人気スターだったが、東京・帝国劇場での「宝塚カーニバル」を最後に退団、以後歌手に転身した。

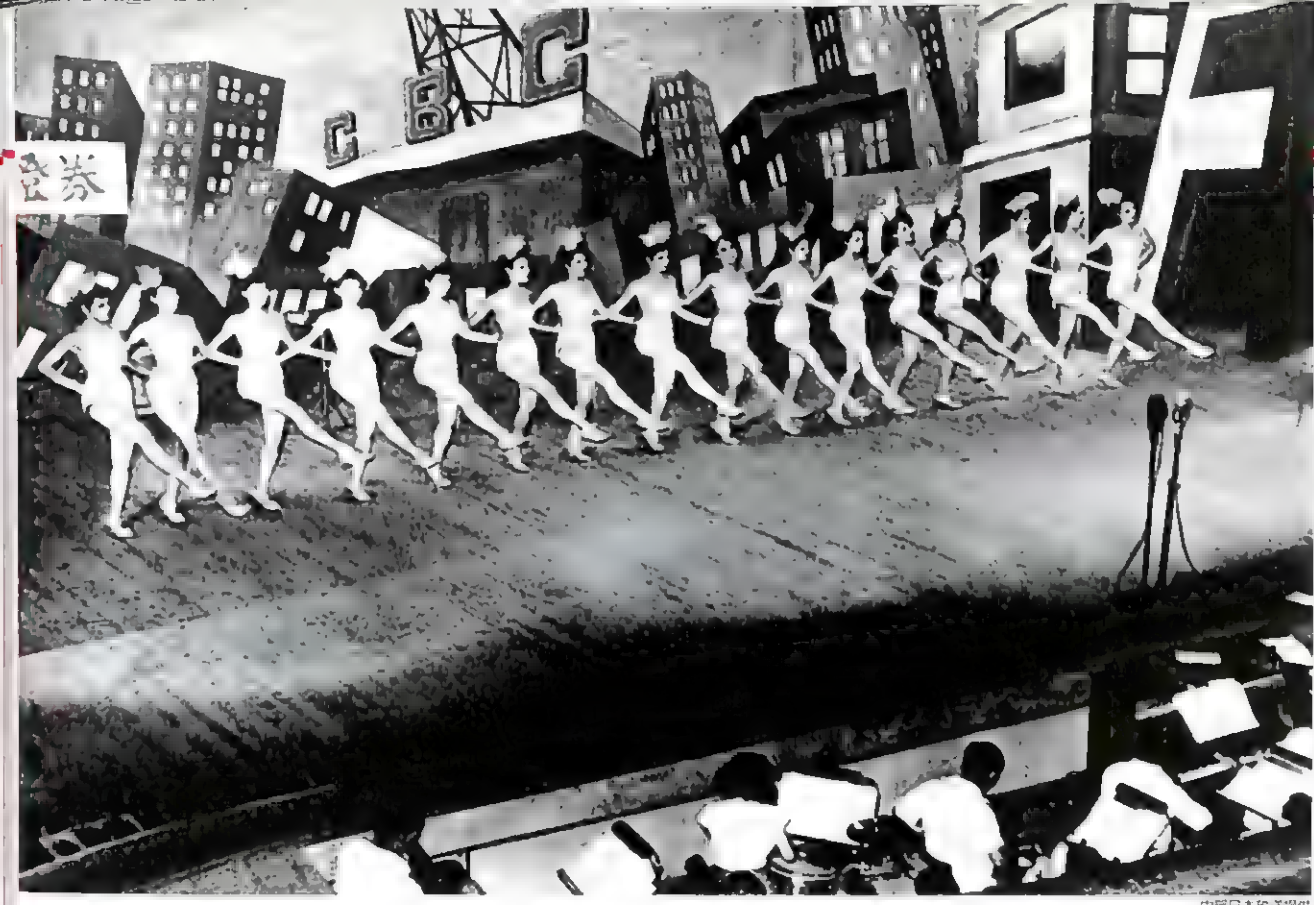
▼**輸出好調のクリスマス飾り(8月29日)**玩具に比べて輸出不振の雑貨の中で、リースやオーナメントなどの装飾品に注文が殺到、メーカーは真夏から出荷準備に追われた。

毎日新聞社

昭和26年8月

1(水)●国土総合開発法第一次指定地域一六を発表。
2(木)●厚生省、一般開業医の外来患者にもストレプトマイシンを配給と決定。
3(金)●都内の私立夜間高校九〇校では学期ごとに二割の生徒が入・退学と新聞に。
4(土)●山形県の蔵王山麓で日本ボーイスカウト野営訓練全国大会。七〇〇〇人が参加。
5(日)●米人女性が広島市に公民館寄贈。贈呈式挙行。
6(月)●政府、第二次追放解除発表。鳩山一郎ら一万三九〇四人。
7(火)●公益事業委員会、只見川と熊野川の電源開発基礎調査で米調査機関OCIと契約。
8(水)●東京都、御茶ノ水駅下や上野・寛永寺のバラック撤去を決め、それぞれの代表に伝える。
9(木)●日銀貸出残高が三二〇二億円と戦後最高更新。
10(金)●京マチ子・志村喬主演「牝犬」封切。
11(土)●三日間晴天の東京に雷雨、四〇カ所に落雷。
12(日)●源氏鶏太の「三等重役」、「サンデー毎日」で連載開始(~27年4月)。
13(月)●立教・大阪・大阪市立各大学と気象台、筑波山で気球による宇宙線観測を開始。
14(火)●九〇万人削減など行政機構改革答申案を決定。
15(水)●『映画白書』。前年は米に次ぎ年二一五本製作。
16(木)●旧陸海軍将校一万一一八五人を追放解除。
17(金)●GHQ、パスポートの自主発給を認める。
18(土)●吉田首相、講和後も公娼復活なしと答弁。
19(日)●名古屋市の中日球場全焼。三人死亡。
20(月)●手塚治虫「ジャングル大帝」刊行。
●日本航空に初のスチュワーデス一五人が入社。
21(火)●中国政府は米英の講和調印は中ソへの宣戦布告とみなすと日本に警告した、と北京放送。
22(水)●選挙制度調査会、小選挙区制の採用を答申。
23(木)●北朝鮮・中国軍、国連軍の中立地帯爆撃を理由に停戦会談の中止を通告(10月25日再開)。
24(金)●救癩事業募金委員会発足。一億円募金運動へ。
25(土)●インド、[illegible]対日講和会議不参加を[illegible]。
26(日)●日本橋高島屋で「ピカソ展」開催。
27(月)●広島市で「原爆傷害者更生会」結成。経済的自立をめざす、初の被爆者組織。
28(火)●[illegible]
29(水)●日航の「金星号」が大阪―板付間でテスト飛行。
30(木)●通産省、ラジオ普及に一億円の月賦資金斡旋。
31(金)●[illegible]

中部日本放送提供

▲米バイオリニスト、メニューイン演奏会（9月）東京の日比谷公会堂で18日から3回にわたって演奏会を開き、名器ストラディバリウスでバッハの「パルティータ」などを演奏。神業と評された演奏テクニックで、観衆を魅了した。

▲初の民放、中日放送開局（9月1日）経験・準備期間の不足にもかかわらず、開局記念番組「躍うCBC」(写真)は、NHKの「二十の扉」などの人気番組に対して60〜70パーセントの聴取率をあげた。

毎日新聞社

▲新生活運動（9月13日）よりよい暮らしは自主的な工夫から、として、主婦連が始めた。家計簿でデータをそろえて物価引き下げ運動に生かすなどの活動を行った。

▶人口急増に追いつかぬ庶民の足（9月19日）流入人口が1ヵ月3万人に達した東京都は、バス路線の増設・延長で対処したが、都バスはいつもすし詰めの状態だった。

毎日新聞社

▶元関脇力道山、プロレス初登場（10月28日）東京・両国のメモリアル・ホールでの国際プロレス大会に出場。米のブランズと対戦して引き分けた。

毎日新聞社

昭和26年9月

1（土）●[illegible]
2（日）●GHQ、[illegible]使用禁止[illegible]
●[illegible]
3（月）●米の対外放送VOA、日本語短波放送を開始。
4（火）●反占領軍言動で共産党幹部一八人に逮捕状。
5（水）●給食継続求め都の学校給食推進協議会結成。
6（木）●渇水で電力不足深刻。公益委は、本州の一般家庭の週一回停電など電力制限を実施。
7（金）●長崎県の松島炭鉱でガス爆発。一四人死亡。
8（土）●対日[illegible]
●[illegible]
9（日）●蚕糸一二県の県会議長が糸価対策緊急協議会を開催し、価格安定施設の設置などを要望。
10（月）●自治体警察廃止の町村が一〇二五町村に。
●講和記念宝籤発売。一等賞金四〇〇万円。
●[illegible]の「羅生門」、ベネチア国際映画[illegible]（日本映画初のグランプリ獲得。
11（火）●全官公中心に、生理休暇取り上げ反対懇談会。
12（水）●武田清子、ジュネーブでのYWCA会議の帰途、マニラのモンテンルパ刑務所に戦犯慰問。
13（木）●ブラジル移民委員会は日本人移民一〇万人への土地七〇万町割当を決定とサンパウロ発。
14（金）●正倉院で未調査の宝物を保存する新宝庫着工。
15（土）●初の「年寄りの日」(中央社会事業協議会制定)。
16（日）●民芸、滝沢修主演で三好十郎作「炎の人」初演。
17（月）●プロ野球放送権・放送料問題で、セ・パ両リーグ会長とNHKが第一回会談を開く。
18（火）●政府、地方行政簡素化本部の設置を決定。
19（水）●通産省、中国向け繊維輸出は鉄鉱石など重要物資とのバーターだけを承認と決定。
20（木）●科学技術者の海外派遣決定し、二〇人発表。
21（金）●建設省、世界最大の起振機で耐震試験を実施。
22（土）●東武日光線にロマンスカー「けごん」運行。
23（日）●吉田首相、賠償要求国との交渉は誠実に始めるが、現物・現金賠償は行わない方針を決定。
24（月）●総評左派、労働者同志会を結成。代表・岩井章。
25（火）●グアム島で元日本兵発見（～28日八人投降）。
26（水）●早大大隈小講堂に日本初の円形劇場成り試演。
27（木）●八百長続発で大井署が大井競馬場に警告。
28（金）●飲酒運転摘発に酩酊検定器導入、と新聞に。
29（土）●横浜地裁、ソ連抑留で三年間音信不通の夫への妻からの離婚請求を「理由なし」と棄却。
30（日）●アメリカでノ[illegible]を用いての手術に成功

▲チャーチル再登場（10月25日）イギリスの総選挙で、6年ぶりに保守党が勝利、チャーチルが首相に返り咲いた。労働党政権の外交政策の失敗などが敗因。写真はエセックス州で遊説中のチャーチル。

◀その出前、待った！（10月）主食の統制が撤廃されるため、目方をごまかし、ごまかし分をさらに販売して儲けようとする悪質業者が続出。写真は、はかり片手にもりソバの出前に待ったをかける経済Gメン。

毎日新聞社

▼民間航空再開（10月25日）日本航空の「もく星号」が乗客36人を乗せ、大阪経由福岡へ向け羽田空港を飛び立った。東京ー大阪間の片道料金6000円は、公務員の初任給とほぼ同じ。

▶東西で人工降雨実験行う（10月27日）30年ぶりの日照りによる渇水で電力不足が深刻化。東京電力は奥多摩で、関西電力は琵琶湖上空で飛行機からヨウ化銀などをまいたが、失敗した。

朝日新聞社

共同通信社

共同通信社

◀ルース台風（10月14日）時速60キロで九州から日本海へ抜け、再び東北地方へ上陸。全国で死者・行方不明者943人、家屋の全壊2万戸の被害が出た。写真は水の引かない大阪市内。

▲新米輸送に特別列車（10月5日）東京の隅田川駅に第1便8580俵が到着。米価改定に便乗するブローカーの闇値吊り上げと売りおしみ防止をねらって、早場米を確保した。

昭和26年10月

1（月）●朝日・毎日・読売三紙、朝夕刊セット販売を再開。
2（火）●朝日新聞の夕刊に「ひととき」欄開設。
3（水）●小津安二郎監督・原節子主演「麦秋」封切。
4（木）●日本初の職業[illegible]伊東絹子ら、デザイナー[illegible]発表会に登場。
5（金）●NHK、[illegible]「[illegible]こし」正式放映を開始。
6（土）●地方自治庁、隣組の復活を奨励しないと表明。
7（日）●東京で、各種興奮剤を作っていた組織的密造団一五人をこの日までに逮捕。
8（月）●講道館、仏柔道連盟の招請で五人派遣と発表。
9（火）●日本コロムビア、EMI社と映画主題歌の原盤供給契約を締結。
10（水）●米でMSA（相互安全保障法）成立。
11（木）●政府、追放解除者の恩給復活を決定。
12（金）●青森県選管、落選者からの異議申し立てを審査し、青森市議一九人に当選無効と裁定。
13（土）●東京駅に六年ぶりステーション・ホテルが復活、と新聞に。
14（日）●ルース台風、九州に上陸し日本縦断。九四三人が死亡、行方不明。電力事情は好転。
15（月）●東京都、自由労働者の賃金を一律二四五円から作業別賃金制に改め、平均二八円値上げ。
16（火）●共産党、[illegible]テーゼ採択、「武装闘争」へ。
17（水）●PL教団・生長の家など新宗教二四教団が新日本宗教団体連合会結成。
18（木）●吉田首相、首相として六年ぶりに靖国参拝。
19（金）●国警京都、中・高生全員にニコチン検査と決定。
20（土）●在日朝鮮人の国籍問題扱う日韓予備会談開始。
21（日）●東京・数寄屋橋公園での戦傷者の断食闘争は、予算一〇億円計上などで九日目に解決。
22（月）●トルコ・ギリシャのNATO加盟が決定。
23（火）●[illegible]
●[illegible]
24（水）●社会党、講和条約めぐり臨時大会で左右分裂。
●厚相、有害説もあるBCGの接種継続を声明。
25（木）●[illegible]
26（金）●衆議院、講和・日米安保両条約を承認。
27（土）●関西電力など、航空機利用の人工降雨実験。
28（日）●[illegible]
29（月）●日医・総評など一七団体、社会保険医の医療点数引き上げを要求し大会開催。
30（火）●東京で日米太平洋市長会議開催。六市参加。
31（水）●[illegible]

◀京大天皇事件（11月12日）天皇が京大を訪問した際、学生が「平和を守れ」を合唱、待機していた警官隊に排除された。自治会は大学を通じて天皇に公開質問状を手渡そうとしたが、大学側に拒否されていた。

◀小田原大火（11月28日）小田原市万年1丁目付近から出火、15メートルの強風にあおられて燃え広がり、298戸が全焼、734人が焼け出された。原因はたき火の不始末。住宅密集地で火のまわりが早かった。

朝日新聞社

▲東京・浅草を愛した永井荷風（11月）ストリップ全盛のこの年、浅草の劇場の楽屋をたびたび訪れ、台本を書き演出も手がけたという。写真は浅草・ロック座でくつろぐ荷風（71）。

毎日新聞社

▶ひさびさの文士劇（11月17日）日本文芸家協会創立5周年を記念して、東京の新橋演舞場で上演。出し物は「鈴ケ森」など。写真は白井権八役の久保田万太郎（右端）と、飛脚役の永井龍男（中央）。石川達三、舟橋聖一らも出演した。

毎日新聞社

▶東京駅の屋根で座りこみ（11月22日）国鉄労組中央闘争委員会幹部の5人が、年末手当を要求して実施。中央昇降口の窓から高さ約50メートルの屋根へ登ったもので、1週間分の食糧と毛布も用意され、「要求貫徹まで絶対降りない」と気勢をあげた。

毎日新聞社

▶米ネバダで核攻撃実験（11月1日）原爆を投下した地域に、迅速に侵攻するための実験で、地上部隊5000人が参加。実験直後から不調を訴える兵士が出現、放射線障害が問題に。

WWP

昭和26年11月

1（木）●米、ネバダ州で初の地上部隊参加による核攻撃実験。被曝後遺症が問題化。
●朝日麦酒、「バヤリースオレンヂ」を発売。
2（金）●矯風会など、公娼制度復活反対協議会結成。
●読売新聞、特集「逆コース」を連載開始。
3（土）●愛媛県で満員バスが映画フィルム引火から全焼、三三人死亡（フィルム持ちこみ禁止に）。
4（日）●外国人用高級車乗りまわす社長ら、「外国自動車譲受規則違反」で、この日までに三〇人送検。
5（月）●マーク・ゲイン「ニッポン日記」刊行。
6（火）●政府、GHQの反対で米の統制撤廃を断念。
7（水）●後楽園競輪で初の少年取締り、六一人補導。
8（木）●学徒援護会、アルバイト学生向けに「梱包荷造り講習会」を開催。
9（金）●江藤俊哉、米のカーネギーホールに出演。
10（土）●日教組、第一回全国教育研究大会を開催。
11（日）●天皇、近畿四県巡幸に出発（〜25日）。
12（月）●京大自治会同学会、天皇来学に公開質問状準備し、「平和を守れ」を合唱。
13（火）●第一回青森―東京駅伝、開催。
14（水）●天野文相、道徳的中心は天皇とする「国民実践要領」大綱を発表（批判噴出で27日撤回）。
15（木）●山梨県の保険医三六四人、診療報酬引き上げ求め、全国で初めて一斉に辞表提出。
16（金）●武満徹ら、実験工房結成し第一回発表会。
17（土）●鎌倉市に神奈川県立近代美術館開館。
18（日）●B29、東京の横田基地付近に墜落。救助の米軍人ら七人死亡、住民一〇人以上が負傷。
19（月）●マヤ片岡、東京・白木屋デパートで世界一周帰国記念の「ビューティ・ショウ」を開く。
20（火）●池田蔵相、給食続けるなら父母負担でと答弁。
21（水）●味の素、食卓用ふりかけ瓶を発売。
●FAO（国連食糧農業機関）、日本の加盟承認。
22（木）●スター総出演の松竹映画「大江戸五人男」封切。
23（金）●朝鮮休戦会談で非武装地帯設定など合意。
24（土）●「プラウダ」、日本共産党の新綱領全文を掲載。
25（日）●作家鹿地亘を米軍諜報機関が藤沢市で拉致。
26（月）●専売公社、外国タバコ一七種の一般販売決定。
27（火）●平均寿命は男六〇歳・女六四歳と厚生省発表。
28（水）●小田原市で大火。二九八戸焼失。
29（木）●東京芸大の梅原龍三郎・安井曾太郎教授ら、新制大学の規則ずくめに不満募り辞表提出。
30（金）●通産省、土浦・甲府・岡山・佐賀など八市の競輪場新設申請は不許可と発表。

▶サンタが街にやって来た（12月）前年来の朝鮮特需によって、経済的に余裕のできた庶民の間にもクリスマスが浸透。各デパートは、家庭向け歳末商戦の客寄せに、サンタクロースを採用した。

共同通信社

◀デパート史上初、三越スト（12月18日）全三越労組は、組合幹部解雇に抗議し、東京の本・支店3店舗で48時間ストに突入。29日東京地裁は、組合側の仮処分申請に解雇無効の判決を下した。

毎日新聞社

▶50円札発行（12月1日）明治32年以来半世紀ぶりの発行。表は元日銀総裁・高橋是清、裏は日銀全景が描かれている。1円、5円、10円、50円、100円の小額紙幣がそろい、釣銭が楽に。

▼山口淑子、結婚（12月10日）アメリカの彫刻家イサム・ノグチと、東京の明治記念館で挙式、「自分に忠実に生きるのが私たちの信念」と語った。山口が米映画「東は東」に出演中知り合った。

◀ようやく姿消す薪タクシー（12月17日）一時3000台もあったが、この頃動いていたのはタクシー・ハイヤー5800台中わずかに2〜3台。道路のまん中でストップして交通の邪魔になるため、今後警視庁は許可しない方針。写真は東京駅前で釜をかきまわす運転手。この車もまもなくスクラップになる予定。

朝日新聞社　毎日新聞社

▲白砂糖、お歳暮の花形に（12月）12年ぶりに業務用が自由販売となったが、白砂糖はまだまだ贅沢品だった。値段は2斤（1.2キロ）250円、5斤620円。写真は東京・日本橋の砂糖問屋の出荷風景。

毎日新聞社

昭和26年12月

1（土）●日本医師会、保険単価問題で保険医辞退決議（8日、単価引き上げで一応の結着）。
●五二年ぶりに五十円札発行。肖像は高橋是清。
2（日）●国警茨城県本部、闇米取締りの情報を漏らした鉄道公安官三人を検挙。
3（月）●矢内原忠雄、東大総長就任を承諾（14日就任）。
4（火）●徳田球一、「徳田要綱」が北京から非合法に通信。
5（水）●GHQ、鹿児島南方海上、吐噶喇列島のうち北緯二九度以北の七島返還の覚書。
6（木）●パリで国際柔道連盟結成。会長・嘉納履正。
7（金）●燕京大客員教授・鳥居龍蔵が一年ぶり帰国。
8（土）●厚生省、社会保険新単価を告示。
9（日）●米原爆傷害調査委員会（ABCC）、被爆の母体への影響は永久的と初の中間報告。
10（月）●林野庁など、森林保護のため門松・クリスマスツリーの節約を提言。
11（火）●大リーグ・ヤンキースのJ・ディマジオ引退。
12（水）●前月閉鎖した新宿の露店二百数十軒が新ビル「新宿サービスセンター」内で開店。
13（木）●警察予備隊の一等警察正、収賄容疑で逮捕。
14（金）●部落解放全国委、京都市職員の小説に関し差別行政糾弾の請願（オールロマンス事件）。
15（土）●初の「NHK歳末たすけあい運動」実施。
16（日）●松阪市で小学校から出火、八・七戸全半焼。
●大阪市で朝鮮人百数十人が、同胞殺戮への加担に抗議し朝鮮人経営の特需工場などを襲撃。
17（月）●公益事業委、年末年始のネオン禁止を解除。
18（火）●三越労組、デパート初の四八時間ストに突入。
19（水）●平塚らいてうら、再軍備反対婦人委員会結成。
20（木）●政府、復興金融金庫解散の政令を決定。
21（金）●ソ連、大山郁夫にスターリン平和賞と発表。
22（土）●「内外タイムス」のストリッパー人気投票でジプシー・ローズが一位。
23（日）●会社紹介のPR映画製作さかんに、と新聞に。
24（月）●吉田首相、台湾国民政府との講和を米に確約。
25（火）●ラジオ東京（現・TBS）開局、「チャッカリ夫人とウッカリ夫人」放送。
26（水）●東京都練馬区の駐在所で巡査撲殺される（練馬事件。小田原製紙労組員ら逮捕、33年有罪）。
27（木）●法隆寺金堂の壁画模写が完成し[illegible]。
28（金）●日教組、戦車などの戦争玩具追放運動を決議。
29（土）●米、実験炉で初の原子力発電に成功と発表。
30（日）●欧州経済復興のマーシャル・プランが終了。
31（月）●GHQ、戦犯管理を日本に委譲と通告。

世相（が）楽（らく）多（た）市（いち）

流行語 サラリーマンの夢と悲哀

「三等重役」。源氏鶏太の人気小説のタイトルで、映画でも大ヒットした。戦後の企業は追放などで創業者社長や大物重役が次々と退陣、思わぬ幸運によって社長や重役の座を射とめるサラリーマンが相次いだ。それはサラリーマンとして夢の実現であったが、風格に欠けるがゆえの悲哀も味わわされた。この言葉はその夢と悲哀を表すものとして使われた。

「アジャパー」。俳優の伴淳三郎の造語で、「あれあれ、ダメだねえ」ということを大げさに表現したもの。「アジャ」は山形地方の方言で、「あれ？　おや？」といった驚きを表す。伴淳はこの流行語で人気喜劇俳優としての地位を確立した。

「G-カット」。米兵の間で流行したヘアスタイル。日本の職人の角刈りとほとんど同じだが、米兵がやっているというので若者に受けた。別名「あんちゃん刈り」とも言う。

「エントツ」。タクシーの運転手が小遣い稼ぎのため、メーターを倒さずに走ること。客の方でもエントツを条件に料金を値切るなど、この年はエントツが大流行した。

◀2月1日、小田急電鉄で従来の特急ロマンスカーの豪華版、1700形が初めて走り、人気を集めた。　小田急電鉄提供

結婚 ダイヤは六〇〇〇個 ソラヤ王妃の結婚ドレス

パーレビ・イラン国王（三二）が豪族の娘、ソラヤ嬢（一八）と結婚式をあげた　花嫁は六〇〇〇個のダイヤモンドをちりばめた銀色のドレスに、これまたダイヤをちりばめた銀の靴　各国からの贈り物もおびただしく、その中にはエリザベス英女王の結婚式を無視したスターリン・ソ連首相から一五万ドルのミンクのコートと、黒ダイヤをはめこんだ机が贈られ、異彩を放っていた。
（「朝日新聞」二月一三日）

さようなら 消えて行く〝大正〟岡山駅の人力車

岡山駅開設当時から六〇年間、一時は市民の足となって繁盛した人力車がついに廃業することになった。駅前の人力車が最も多かったのは大正時代で二〇〇台を超えた。だが昭和一〇年頃からタクシーの進出に食われ、戦時中はガソリン不足から一時的に持ち直したものの、今では一五台が待てども来ぬ客を待っているだけ。一台も仕事がない日が続くところから廃業することになった。
（「山陽新聞」二月二九日）

CM100年

おしゃれ向答
ニキビ…色黒の巻

あなたって日ヤケや肌アレ知らずで白い肌ね　何かいいこと知ってるんでしょ

じゃ私のようにロゼット洗顔パスタを使ったら？

あのコロイド硫黄入りの洗顔パスタのこと？

そう硫黄は殺菌力もあり古い皮フの角質をとって若肌にする作用もあるが化学変化すると強い漂白力を出すので染物の色抜きにも使われるのを知ってる？

でも色ぬきなんかでどうかしら？

だから昔から硫黄温泉に長いこと入れば色の白い美しい肌になるじゃないの！

あ、ほんとに、そうだったわね　じゃ硫黄を取入れたら、とてもよい美白料ができるでしょうね

だからロゼット洗顔パスタは長年の研究で、この硫黄の作用を高度にいかしてあるのでニキビやシミ、ソバカスをとゝのえハリのある色白のツヤ肌にするのよ

使ったこの気持
ロゼットで洗顔すれば、色も白くなり、キメ細かく肌が整い、白粉ツキもよくなるだけではなく、これで洗顔する時、細かい泡が豊富にたち、香りもよく、もっと早く使えばよかったと思うほどです。

ロゼット洗顔パスタの薬効
ニキビ、シミ、ソバカス、小ジワに

ロゼット本舗

新聞CM「ロゼット洗顔パスタ」（詩留美屋、現・ロゼット）

▲白子さん、黒子さんの会話で構成された広告が評判で、通信販売も好調だった。

データ 初の一〇〇グラム突破 化粧品の使用量

朝鮮戦争による特需景気は何よりも女性を美しくした　その点は化粧品の使用量に如実に表れている　それをデータによって見ると（数字は人口一人当たり）

昭和一一年＝五〇グラム、二二年＝五六グラム、二三年＝六九グラム、二四年＝七一グラム、二五年＝八六グラム、二六年＝一〇八グラム　つまりこの年、化粧品の使用量が戦後初めて一〇〇グラムを超えたのである
（「化粧品業界総覧」）

講和記念宝くじ
400万円

▶九月一〇日、大蔵省が、一等四〇〇万円の講和記念宝籤を発売。

▲「冒険王」10月号から連載が始まった、馬場のぼる作「山から来た河童」。なにげない子どもの日常を描いた

三面記事 〝ムショ仲間〟の同窓会

かの菅原通済居士（実業家）は三年前、昭電事件で警視庁のブタ箱に投げこまれていた時、同じ雑居房にいた殺人未遂、故買、スリ、恐喝、賭博などの〝同窓生〟八人と〝八房会〟なるものを作っていたが、この年一月八日、新橋で新年宴会を開いた。この会に出席できなかったのは大阪の土建業の親方と脱獄囚の〝幸ちゃん〟。土建業の親方は所用でやむなく欠席したのだが、〝幸ちゃん〟は昨年末、胸の病いで二四歳の短い生涯を閉じたのだ。

通済居士は国立病院で療養していた幸ちゃんを二六回も訪れ、その交友録を「破獄囚の幸ちゃん」というエッセイにまとめて雑誌に発表した。それが近々映画化されることになったという。出席した六人は映画化を喜ぶと同時に、幸ちゃんの短い一生をしのび合った。
（「毎日新聞」一月九日）

◀11月、土佐っ子が熱狂する伝統の闘犬が、10年ぶりに高知市設相撲場で開催。写真は追風号。
共同通信社

裁判 慰謝料の請求権なし 童貞喪失に新判例

東京地裁で二月九日、性に関するユニークな判決が言い渡された。童貞喪失の場合、処女喪失と違って慰謝料を請求する権利がないというのである。訴えていたのは東京・赤坂のクリーニング業、沢田文夫（三〇）。三年前、同じクリーニング店の娘、緑（二八）と結婚し、彼女の家に同居して店を手伝っていた。ところが初夜こそセックスしたものの、二日目から緑は生理と称して拒絶、五日後には夫を板の間に追い出し、口もきかず食事も作らなくなった。夫の方が二ヵ月間にわたって食事を作り、ご機嫌を取り結んだという。しかし妻の態度は悪化する一方。頭にきた文夫は家を出て「結婚した時自分は童貞だったから、童貞喪失の慰謝料として二〇万円よこせ」と要求したのである。

で、地裁は事実関係については文夫の主張を全面的に認めたが、慰謝料については「処女喪失と童貞喪失では社会の評価がまったく違う」と主張を退けたのだった。
（「日本」四月号）

社会 原野にキャバレー街 〝チトセ〟狂騒曲

【札幌発】北海道の千歳が米本国まで悪名？を轟かせたのは、オクラホマ州兵二個師団が来てからである。それまでは、街道沿いにポツポツ家があるほかは耕地と原野だったところに、二個師団の将兵が入ったのだからテンヤワンヤ。毎日平均三戸ないし五戸という、〝アメリカさん〟相手の商売屋が建った。ひどいのは、二、三日でバラック建てのキャバレーができたこともある。原野の中に、西部活劇そのままの町が出現したのだ。札束が飛ぶなどという形容は生ぬるい。一日三〇万、四〇万の現金を稼ぐキャバレーはザラ、〝パンパン〟などはミカン箱に札を投げこんで勘定していたという。
（角川書店『日本拝見・東日本編』）

明治製菓提供

▲3月1日、明治製菓が戦後初の国産板チョコ「明治ミルクチョコレート」を発表し、人気に。

はやり歌

上海帰りのリル

作詞　東條寿三郎
作曲　渡久地政信

船を見つめていた
ハマのキャバレーにいた
風の噂はリル
上海帰りの　リル　リル
あまい切ない　思い出だけを
胸にたぐって　探して歩く
リル　リル　何処にいるのかリル
誰かリルを知らないか

◀津村謙の甘い歌声でヒット。ラジオで、戦時中に別れた人をさがす〝尋ね人〟番組があった時代にぴったりの歌だった。
シンコーミュージック提供

黒いドレスを見た
泣いていたのを見た
戻れこの手にリル
上海帰りの　リル　リル
夢の四馬路の　霧降る中で
何も言わずに　別れた瞳
リル　リル　ひとりさまようリル
誰かリルを知らないか

海を渡ってきた
ひとりぼっちできた
希望捨てるなリル
上海帰りの　リル　リル
暗い運命は　二人で分けて
共に暮そう　昔のままで
リル　リル　今日も逢えない　リル
誰かリルを知らないか

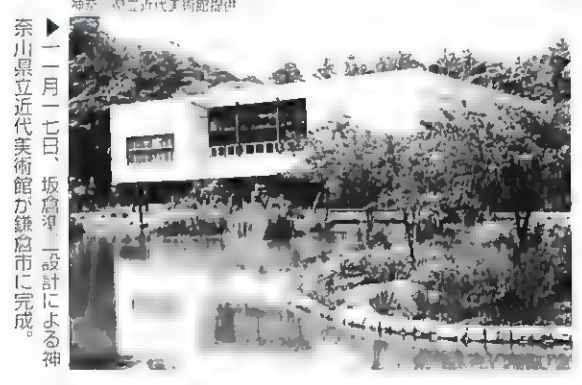
高原の駅よ　さようなら

作詞　佐伯孝夫
作曲　佐々木俊一

しばし別れの夜汽車の窓よ
言わず語らずに心と心
またの逢う日を目と目で誓い
涙見せずにさようなら

旅のお人と恨までおくれ
二人抱いてながめた月を
離れはなれて相呼ぶ夜は
男涙でくもらせる

わかりましたわ　わかってくれた
後は言うまい聞かずにおくれ
思いせつなく手に手をとれば
笛がひびくよ高原の駅

福田俊二提供
▲小畑実が歌った。全国の国鉄の駅で、列車の発着のたびにこの歌を流した。
JASRAC 出　許諾第9708152-701号

神奈川県立近代美術館提供

▶一一月一七日、坂倉準三設計による神奈川県立近代美術館が鎌倉市に完成。

この年の初もの

国産初のインターホン　一万九四〇〇円

●貸しネクタイ屋　東京・新橋に登場　好みの柄を一週間一〇円（ほかに保証金一五〇円）で貸す

●貸し鳩屋　運動会やトンネルの開通式、船の進水式などのイヘントの際、くす玉の中に入れる鳩を貸すもの　東京・芝の小鳥屋が五羽三〇〇円で始めた

●口臭除菌歯磨き　アメリカのリスタン社が発売　日本では昭和三七年、サンスターから発売

世界の動き

「原子力スパイ」の名のもとにローゼンバーグ夫妻はなぜ死刑になったのか

▲1951年4月5日、有罪判決の後、拘置所へ戻るジュリアス（右）とエセル（左）のローゼンバーグ夫妻。 CORBIS-BETTMANN/PPS

原爆製造の機密情報をソ連に売り渡したとしてローゼンバーグ夫妻が逮捕され、一九五一年四月五日、夫妻に死刑判決が言い渡された。ちょうどこの頃、アメリカではマッカーシー上院議員による反共の嵐が吹き荒れていた。夫妻は、本当に極刑にあたる罪を犯したのだろうか。

◀ローゼンバーグ夫妻の遺体は、ブルックリンの礼拝堂に移され、新聞記者が処刑を確認。教会の外では抗議のデモが続けられていた。

米国裁判史上で初スパイに死刑判決

「有罪認定事由どおりの罪状により、ここにあなたの死刑を申し渡し、五月二一日月曜日より始まる週のいずれかの日に、法に従い刑の執行を命じます」

一九五一年四月五日、アメリカ連邦裁判所のアーヴィング・カウフマン判事は、ジュリアス（三三）、エセル（三五）のローゼンバーグ夫妻に死刑を宣告した。

無実を訴えて寛大な措置を求める夫妻の訴願書を、アイゼンハワー大統領は二度にわたって拒否し、米国史上初のスパイに対する死刑が確定したのである。

事件の発端は前年の一九五〇年二月、アメリカの原爆機密をソ連側にもらしたとして、イギリスの原子物理学者クラウス・フックス博士が逮捕されたことにあった。その後、アメリカでの共犯者として化学者のハリー・ゴールドが逮捕され、さらに戦争中に原爆研究所で働いていたデイヴィッド・グリーングラスがFBIの捜査線上に浮かび上がった。

そしてその年の七月一七日にジュリアス、その約一ヵ月後に妻のエセルが逮捕された。容疑はエセルの実弟グリーングラスの「最高機密を盗み出し姉夫婦に渡した」とする証言によるもので、犯行を裏づける有力な証拠はほかにはなかった。

しかも、フックスの刑が一五年、ゴールドが二〇年、グリーングラスが一五年なのに、ローゼンバーグ夫妻だけが死刑を宣告されたのである。

ローゼンバーグ夫妻はユダヤ系の移民の子で、若い頃共産主義に共感したことがあった。それに加えて、五〇年六月から始まった朝鮮戦争は、アメリカのソ連に対する憎悪を募らせ、頑強に罪を否認するローゼンバーグ夫妻を、いわば〝見せしめ〟の標的にしたのである。

世界中で起こった助命嘆願運動の嵐

夫妻の死刑が確定すると、アメリカ国内だけでなく、世界中から助命嘆願運動が湧き起こり、物理学者のアインシュタイン、作家のサルトル、フランス大統領オリオルをはじめ、ローマ法王ピオ一二世からも死刑延期の要請が寄せられた。

それは、物的な証拠もなく、他の被告の証言だけで、極刑を言い渡すという不条理なアメリカ政府への抗議であった。

死刑執行は一九五一年五月二一日から一週間以内と決定されていたが、弁護人であるエマヌエル・ブロックの控訴で延期され、その年も、翌五二年も行われなかった。裁判所の中にも、「夫妻のスパイ行為は極刑に値するほどの重罪ではない」という声があったからだ。

しかし、五三年に入り、世界的に起こった減刑運動が最高潮に達すると、まる

▲1953年6月19日、夫妻の処刑の日、ロンドンの約3000名のデモ隊は、トラファルガー広場を埋めた。

でその状況にあわてたように最高裁は上告を却下、これで再審への道は完全に閉ざされてしまった。
刑の執行は六月一九日と決定した。その日は朝から、「我々は無実だ」という夫妻の陳述を記したプラカードを手にしたデモ隊が、ニューヨークの目抜き通りを埋めつくし、恩赦を求める世界中からの電報の数は、六月一六日から一一日の間に二万五〇〇〇通にも達した。
逮捕後、夫妻は一貫して無実を叫び続け、日々死の恐怖にさいなまれながらも、ニューヨーク州オスニングのシンシン刑務所で手紙をとりかわし、愛と励ましのエールを送り合っていた。
死刑判決から四日後、ジュリアスは妻エセルに次のような手紙を送っている。
「きたならしいウソや誹謗がどんなに積み重ねられたって、僕らの勇気を少しもくじくことはできない。それどころか、かえって、無実を証明するまで勇気をふるい立たせるだけなのだ」(『愛は死をこえて』山田晃訳、光文社刊)
そして死刑執行の直前、自白を迫る司法当局は、「罪を認めれば命は助ける」と取り引きを申しこんだが、夫妻は拒否したのである。
処刑はシンシン刑務所で行われた。夫妻は最後の面会が許され、二時間ほどをともにすごした。二人とも取り乱した様子もなく刑にのぞみ、ジュリアスは午後八時六分電気椅子で絶命、まもなくエセルも夫の後を追った。
ローゼンバーグ事件の真相はどこにあったのか。
北海道大学法学部教授の古矢旬氏は
「一九七五年にFBI、CIAの記録の一部が公開され、歴史家の間に論議が続いていますが、スパイに関与したとはいえ、極刑に値するものではなかったというのが真相のようです。裁判から処刑にいたる経過に、"マッカーシズム"に示される冷戦初期の米ソのかなり緊張した時代状況が色濃く影響していたことは否定できません」と語っている。
冷戦初期の国際政治の動向に不安を抱き、いらだつアメリカの一面を浮き彫りにした事件だった。

ジュリアス・ローゼンバーグ(1918〜1953)
アメリカの電気技術者。陸軍に勤務していたが、一九四五年共産主義者とみなされて解雇される。スパイの疑いで逮捕され、妻とともに処刑された。
J・R・マッカーシー(1908〜1957)
アメリカの政治家。弁護士を経て海兵隊へ。一九四六年共和党上院議員。反共を名目に政敵を攻撃。五四年に"赤狩り"の虚偽性が明らかになる。

▶デモに参加の、夫婦の二人の息子。右端と右から四人目。
CORBIS-BETTMANN PPS

外から見たNIPPON

台湾から"亡命"した陶晶孫の「戦後日本」見聞記

佐伯 修

少年時代から青年時代にかけて日本ですごし、日本人女性を娶った、中国・無錫出身の文学者で医学者、陶晶孫(一八九七〜一九五二)は、昭和二五年四月、戦後初めて日本の土を踏み、この年、永住許可を獲得した。彼は台湾大学熱帯医学研究所長などの地位にあったが、台湾島内における大規模な騒乱「二・二八事件」や、大陸での共産党に対する敗北後、恐怖政治をエスカレートさせた国民政府の迫害を避けての、事実上の亡命だった。
「かねて日本の親友から衣料や食料のことをきかされていたので、さぞ困っているだろうと思った。なるほど中年以上の人々の顔色はさほどよくない。しかし若い人々は好い顔色をしている。賑やかな街では、多くの女性はすばらしい美装だ。次の時代にはまた先祖の苦労は忘れるにちがいない。大震災を忘れてしまったからまた東京の町を焼いてしまった」
「私が子供のときお茶の水にゆくと板橋行の鉄道馬車があった。今は上等なバスが板橋へゆく。あの時は漱石が猫をかいていたが、今はお茶の水の駅にチャタレーの広告がある。昔は藤村操が華厳の滝へ飛び込んだ。今は理由のない心中はない、一番多いのは生活苦だ、即ちユーモアとユーウツが同時になくなったのだ」(『日本見聞記』)
このように、日本で自己形成を行った陶の日本語はたくみで、彼の日本語のジョークには、周囲の日本人も舌を巻いたという。また、鋭い批評や辛辣な警句を、ユーモアや婉曲表現に韜晦させた陶の文章には、芯に激しいものを持ちながら、どこまでも激さず、繊細だった彼の人柄が表れている。
魯迅、郭沫若ら、日本に留学した中国の文学者の中には、当初、医学を学んだ人が少なくないが、その多くは医学を捨てている。だが、陶は、医学も文学も捨てず、郭らと「創造社」で文学運動を行い、夏衍らとは「芸術劇社」で演劇運動を行う一方、中国の公衆衛生学の先駆者ともなった。なお、陶の妻・みさをは、郭の妻・をとみ(安娜)の妹で、陶と郭は義兄弟になる。
日本人を妻とする陶は、日中戦争で複雑な立場に立たされたが、彼は戦争終結まで日本軍占領下の上海にとどまった。そして、日本軍占領地区(淪陥区)と、非占領地区(抗戦区)に分断された、中国の医学関係者の往来ルート作りなどもしたという。
日本への"亡命"後、陶は成立直後の中華人民共和国に、最後の希望を託す。しかし、癌にむしばまれ妻の国で世を去った。

▶草野心平、呉清源らとも親交を結ぶ。
陶棣士/東方書店提供

往きて還らぬ

▲5月17日　貞明皇后(66)
明治33年、15歳で皇太子の大正天皇と結婚。昭和天皇ほか4児を出産。生涯ハンセン病患者の救済に献身した。

▲3月10日　幣原喜重郎(78)
政治家。戦前は外相をつとめ、平和外交を展開。昭和20年10月首相に就任、「天皇人間宣言」を起草、翌年退陣。

▲1月23日　白井松次郎(73)
元松竹会長。明治35年松竹合名会社を設立。以後、東西の劇場を次々と傘下におさめ、大正9年松竹キネマを設立。

▲1月1日　梨本守正(76)
元皇族、軍人。明治18年、梨本宮を継ぐ。昭和7年元帥。戦後、皇族で唯一戦犯容疑で逮捕されたが、翌年釈放。

▲6月28日　林芙美子(47)
小説家。昭和5年『放浪記』を出版し、一躍人気作家に。戦中は従軍作家として活躍。ほかに『晩菊』『浮雲』など。

◀1月30日　F・ポルシェ(75)
独・ポルシェ社の創設者。第1次大戦後フォルクスワーゲンを発表、1948年、小型スポーツカーのポルシェを完成。

▲8月14日　W・R・ハースト(88)
米の新聞王。主要都市の新聞を買収、また新聞の系列化を実現、ラジオ・映画会社も所有、"ハースト王国"を築いた。

▲3月13日　原民喜(45)
詩人、小説家。昭和10年『焔』出版。戦後は被爆体験を書いた『夏の花』で話題を集めたが、鉄道自殺した。

▶1月10日　仁科芳雄(60)
日本の原子物理学の父。昭和六年理研に仁科研究室を設立。サイクロトロンを建設する。昭和二二年文化勲章受章。

▲9月11日　末弘厳太郎(62)
元東大教授で、労働法学の開拓者。大正13年東大セツルメント設立。戦後、中央労働委員会初代会長。著書『物権法』。

▲5月1日　永井隆(43)
医学者。研究中のレントゲン照射と長崎原爆で被爆。病床から『長崎の鐘』『この子を残して』など発表、話題に。

▲2月19日　アンドレ・ジード(81)
『背徳者』『狭き門』で知られる、仏の小説家。1947年ノーベル文学賞受賞。紀行文に『ソ連紀行』など。

▲1月21日　宮本百合子(51)
小説家。日本女子大在学中、『貧しき人々の群』発表。昭和7年、共産党の宮本顕治と結婚。代表作『播州平野』など。

既刊36冊! 1940・1960・1970年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第37号 11月4日(火)発売 定価560円 本体533円
毎週火曜日発売 講談社

1952[昭和27年]

●特集
米軍管制下の闇に消えた日航「もく星号」遭難事件の真相／“真知子巻き”も大流行「君の名は」が女湯をガラガラにした!／「鉄腕アトム」デビュー!／手塚治虫が生んだ最大のヒーロー／「風と共に去りぬ」大ヒット! 世界の傑作続々公開で“洋画”ブーム

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する366日…韓国、李承晩ライン設定(1月18日)／講和・日米安保両条約発効(4月28日)／大賀一郎博士が発掘した二〇〇〇年前の蓮の花開花(7月18日)／ヘルシンキ五輪開幕、一六年ぶりの日本、初のソ連など六九ヵ国参加(7月19日)／保安隊創設(10月15日)／皇太子明仁の立太子礼挙行(11月10日)

●人物クローズアップ
白井義男、初のフライ級世界王者に

●決定的瞬間
皇居前「血のメーデー事件」の修羅場

●美の出会い
ブリヂストン美術館がオープン!

●女たちの肖像…壺井栄と「二十四の瞳」

／勝者・敗者…石井庄八、ヘルシンキ五輪で金／証言・あの日この日…丹羽文雄・深代惇郎／20世紀博物館…NHK放送博物館(東京)／「現場」を歩く…菅生事件と権力の犯罪／外から見たNIPPON…公刊された「パル判決書」の真意

●ベストセラー…安田徳太郎「人間の歴史」／スターと名場面…「生きる」「本日休診」／モノ語り'52…「マジックインキ」「ホッチキス」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959[昭和34年] 第2号1964[昭和39年] 第3号1945[昭和20年] 第4号1970[昭和45年] 第5号1963[昭和38年] 第6号1958[昭和33年] 第7号1972[昭和47年] 第8号1980[昭和55年] 第9号1976[昭和51年] 第10号1989[平成元年]

第11号1960[昭和35年] 第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年] 第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年]

第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年] 第28号1923[大正12年] 第29号1971[昭和46年] 第30号1973[昭和48年]

第31号1974[昭和49年] 第32号1975[昭和50年] 第33号1977[昭和52年] 第34号1978[昭和53年] 第35号1979[昭和54年] 第38号1953[昭和28年] 第39号1954[昭和29年]

■今後の刊行予定

▶第40号1955[昭和30年]11月25日発売
「三種の神器」で家電時代到来●「春闘」スタート●広がるヒロポン禍●ジェームズ・ディーン、激突死

▶第41号1956[昭和31年]12月2日発売
「太陽の季節」に芥川賞●憧れの2DK! “団地族”誕生●週刊誌時代到来●スターリン批判の衝撃

▶第42号1957[昭和32年]12月9日発売
石原裕次郎と日活青春映画●南極観測隊、昭和基地建設●代々木ゼミナール開校●リトルロック事件

▶第43号1931[昭和6年]12月16日発売
浅草の喜劇王・エノケン●黄金バットとのらくろ●「満州事変」勃発!●エンパイア・ステート・ビル完成

▶第44号1932[昭和7年]12月22日発売
「満州国」建国●大森ギャング事件とスパイM●五・一五事件●「ターザン」とワイズミューラー人気

▶第45号1933[昭和8年]平成10年1月6日発売
皇太子明仁親王誕生●三陸大津波の恐怖●特高、小林多喜二を虐殺●日本、ついに国際連盟脱退へ

▶第46号1934[昭和9年]1月13日発売
室戸台風の猛威●驚愕の贋作浮世絵「春峰庵事件」●大日本東京野球倶楽部設立●中国紅軍、長征開始

▶第47号1935[昭和10年]1月20日発売
大本教に大弾圧●作られた美談「忠犬ハチ公」●第四艦隊事件●スイング全盛とベニー・グッドマン

▶第48号1936[昭和11年]1月27日発売
日本を震撼させた二・二六事件●ベルリン五輪の“明暗”●西安事件●エドワード8世「王冠をすてた恋」

▶第49号1937[昭和12年]2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」起工●南京虐殺事件●女性飛行家イヤハート謎の遭難

▶第50号1938[昭和13年]2月10日発売
幻の東京五輪●代用品時代始まる●笑いの慰問団「わらわし隊」●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境

▶第51号1939[昭和14年]2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発

▶第52号1940[昭和15年]2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●日独伊三国同盟締結●強まる統制“配給”に“回覧板”●“海の狼”Uボート

▶第53号1981[昭和56年]3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●「窓ぎわのトットちゃん」刊行●第2次臨調スタート

▶第54号1982[昭和57年]3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●新日鐵で高炉休止続く●日米コンピュータ戦争●フォークランド紛争

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

ミニ事典
1951年のキーワード

ミス・トルコ
「トルコ風呂」のサービス・ガール。東京・銀座の東京温泉がトルコのターキッシュバスにヒントを得た浴場を開店するため「高給保証、美人・スタイルよき方」として一月二七日に募集。彼女らは四月一日オープンとともにブラジャーにショートパンツという姿で入浴客にマッサージなどのサービスを行ったが、後の「トルコ嬢」のような性的サービスはいっさい行わなかった。入浴料は大衆浴場が一〇〇円、個室は六〇〇円と破格だった。

毎日新聞社

▶東京温泉でミス・トルコのサービスを受ける“憲政の神様”尾崎行雄。

共同通信社

▲2月24日、マーカット少将(正面)と懇談する、セ・パ両リーグの代表。

プロ野球「西日本」問題
西日本パイレーツが、六球団制移行をめざすセリーグから脱退、これをパリーグの西鉄が受け入れたことから起きたセ・パの紛糾。西日本は同時に、巨人の三原総監督と主力選手の青田昇の引き抜きにも成功、問題をこじらせた。二月、GHQ(連合国総司令部)経済科学局長兼米国野球協会日本支部長のマーカット少将が仲介に乗り出し、コミッショナー設置と全国職業野球連盟の設立を勧告。三月に就任した初代コミッショナー、前検事総長・福井盛太の裁定によってやっと事態は終息した。

医薬分業
医師は病気の診断と薬の処方を行い、薬の調合と投薬は薬剤師が行うという分業制。この頃、故意に高い薬を調合したり、安い薬を高く売ったりして薬価収入を上げようとする悪質な医師が続出したため、二月二八日、臨時医薬制度調査会がその必要性をまとめ厚生省に答申。しかし、実施は昭和三一年四月一日からとなった。

鉄道公安官
国鉄の列車・停車場・鉄道施設などで起きた犯罪を取り締まる国鉄職員。正式には鉄道公安職員。昭和二二年の創設時は現行犯しか逮捕できず武器も携帯できなかったが、二五年の条例改正で非現行犯の逮捕と武器の携帯が許され、この年三月一四日、ピストル使用取扱規則が公布施行された。昭和六二年の国鉄民営化によって廃止、警視庁あるいは各道府県管轄の鉄道警察隊に替わった。

民営米屋
一定の資格のもとに独立採算で経営する、いわゆる昔ながらの「お米屋さん」。昭和二二年二月に発足した食糧品配給公団の配給所に代わって、四月一日から開業した。消費者は自由に店を選ぶことができたが、食糧管理法の統制を受け、米穀配給通帳制によって米を購入した。

共同通信社

▶全国約三万三〇〇〇の配給所が、五万四〇〇〇の「お米屋さん」になった。

児童憲章
「児童は人」「児童は社会の一員」などを掲げ、子どもの幸福を保障することを目的に五月五日に宣言された日本国民の申し合わせ。前文および総則三ヵ条、各論一二ヵ条からなる。戦後、浮浪児が多出し、青少年犯罪が増加、貧困による人身売買も後を絶たなかった。こうした背景とGHQ公衆衛生福祉課のマーカソンの勧告が日本政府を動かした。

ジェットストリーム理論
北半球の亜成層圏を走る長さ数千キロ、幅数百キロの強いジェットストリームが、ヒマラヤ山脈の影響を受けて大きくうねり、梅雨前線を日本付近に押し上げることによって梅雨が起こるとする理論。気象庁の村上多喜雄が提唱、「気象集誌」五月二五日号に発表した。

学習指導要領
文部省が小・中・高等学校の学習の目標・内容を示す基準。学校の教育課程編成や指導計画の手引きとなる。昭和二二年三月に小・中学校対象に「学習指導要領一般編(試案)」として初めて登場、この年七月一日、改定試案が発表され、授業時間数の増加、毛筆習字の復活、中学校での日本歴史の復活などの実効をもたらした。三三年以降、文部省は「試案」の文字を取り、学習指導要領は法的拘束力を持つものになった。

五一年テーゼ
一〇月一六日に行われた第五回全国協議会(五全協)で日本共産党が採択した「新綱領――日本共産党の当面の要求」。武装闘争を正当化し、暴力革命の必要を訴えた。これによって同党は火炎ビン闘争、山村工作隊など一層過激な闘争に走り、一九五六年(昭和三一)にソ連共産党第二〇回大会でスターリン批判が出るまで、この「五一年テーゼ」は生き続けた。

出入国管理令
日本への出入国を管理し取り締まる法律。朝鮮戦争勃発が契機となり、ポツダム政令として緊急発令。北朝鮮など社会主義国からの日本への潜入と、日本からそれらの国への脱出を取り締まることがおもな目的だった。一〇月四日公布、一一月一日施行。講和条約発効後の昭和二七年、法律と同等の効力を与えられ、五六年、在日朝鮮人やインドシナ難民など長期残留外国人の法的地位の安定化をめざして一部改正、「出入国管理及び難民認定法」に発展解消した。

逆コース
この年一一月二日から「読売新聞」が連載を始めた特集のタイトル。朝鮮戦争の勃発、相次ぐ追放解除を背景に台頭したこの年の政治・社会・風俗全般にわたる、民主主義を標榜する占領政策に逆らうかのような復古調の風潮のこと。再軍備論の浮上、愛国心教育の提唱など。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1951

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鎌和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替敦展 藤森雅弘 結城順・吉田忠正

●写真協力
朝川広尾 奥村健太郎 陶様士 林邦雄 ウェルナー・ビショフ 福田俊二 三木淳
朝日新聞社 キーストン 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 中日新聞社 中部日本放送 東方書店 PPS Popperfoto 毎日新聞社 マグナム・フォト ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP 小田急電鉄 松竹 シンコー・ミュージック 第一勧業銀行 大映 日本航空 明治製菓 NDC事務局 大宅壮一文庫 神奈川県立近代美術館 日本玩具資料館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。
©講談社 1997 本誌の記事・写真を無断で複写(コピー)・転載することを禁じます